２．家事にかける時間

問12　あなたと配偶者（事実婚・パートナーを含む）の家事について伺います。あなたと配偶者は、それぞれ１日の中で、家事を何時間ぐらいしていますか。平日と休日に分けてお答えください。

①あなた（回答者）の家事にかける時間

男性は平日、休日ともに「1分～2時間」、女性は平日、休日ともに「2時間超～4時間」が最も高く、女性の平日の平均家事時間は男性の約3.2倍。

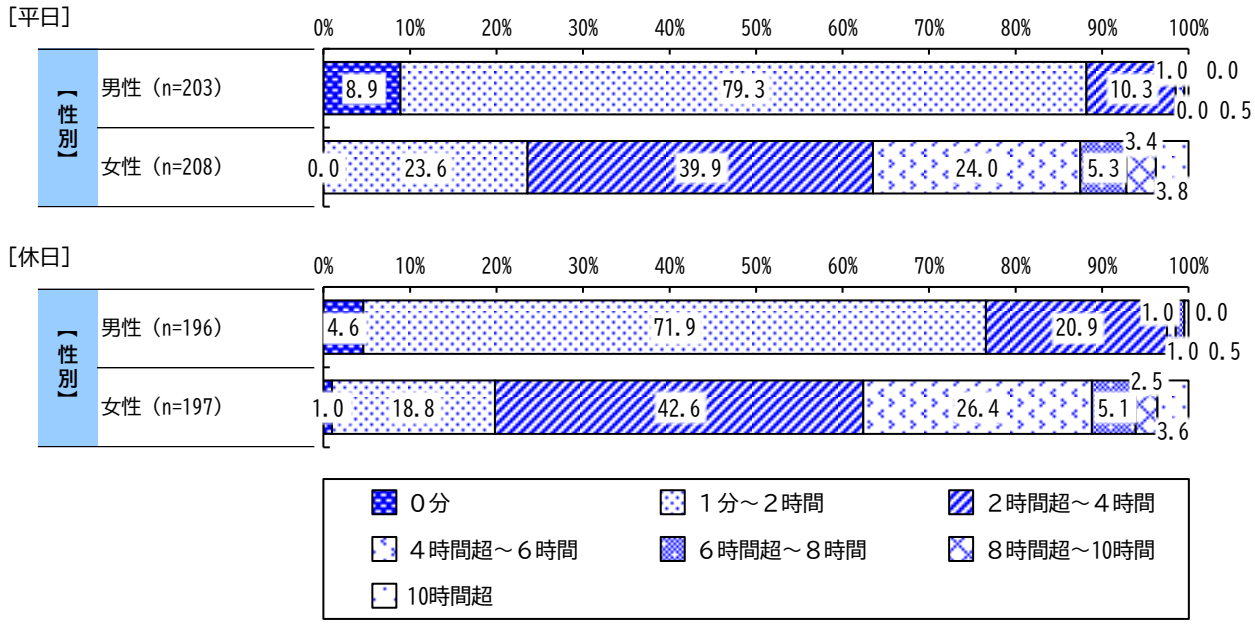
回答者が家事にかける時間は、男性の場合、平日は「１分～２時間」が79.3%、休日も同様に「１分～２時間」が71.9%と最も高く、女性の場合、平日は「２時間超～４時間」が39.9%、休日も同様に「２時間超～４時間」が42.6%と最も高くなっています。

男性の１日あたりの家事平均時間は、平日1.34時間、休日1.74時間となっています。また、女性の１日あたりの家事平均時間は、平日4.25時間、休日4.29時間となっており、女性の家事平均時間は、男性の家事平均時間と比べると平日は約3.2倍、休日は約2.5倍となっています。

性・年代別でみると、男性の場合、平日、休日ともにすべての年代で「１分～２時間」が最も高くなっています。また、30歳～39歳で休日の家事平均時間が２時間を超えています。女性の場合、平日、休日ともに70歳以上で「４時間超～６時間」、その他の年代で「２時間超～４時間」（18歳～29歳では、平日は「１分～２時間」と同率）が最も高くなっています。また、平日、休日ともに70歳以上の家事平均時間が５時間を超えています。

経年比較でみると、男性は休日の「１分～２時間」がやや減少し、「２時間超～４時間」がやや増加しています。女性は平日の「１分～２時間」が増加しており、「２時間超～４時間」が減少しています。

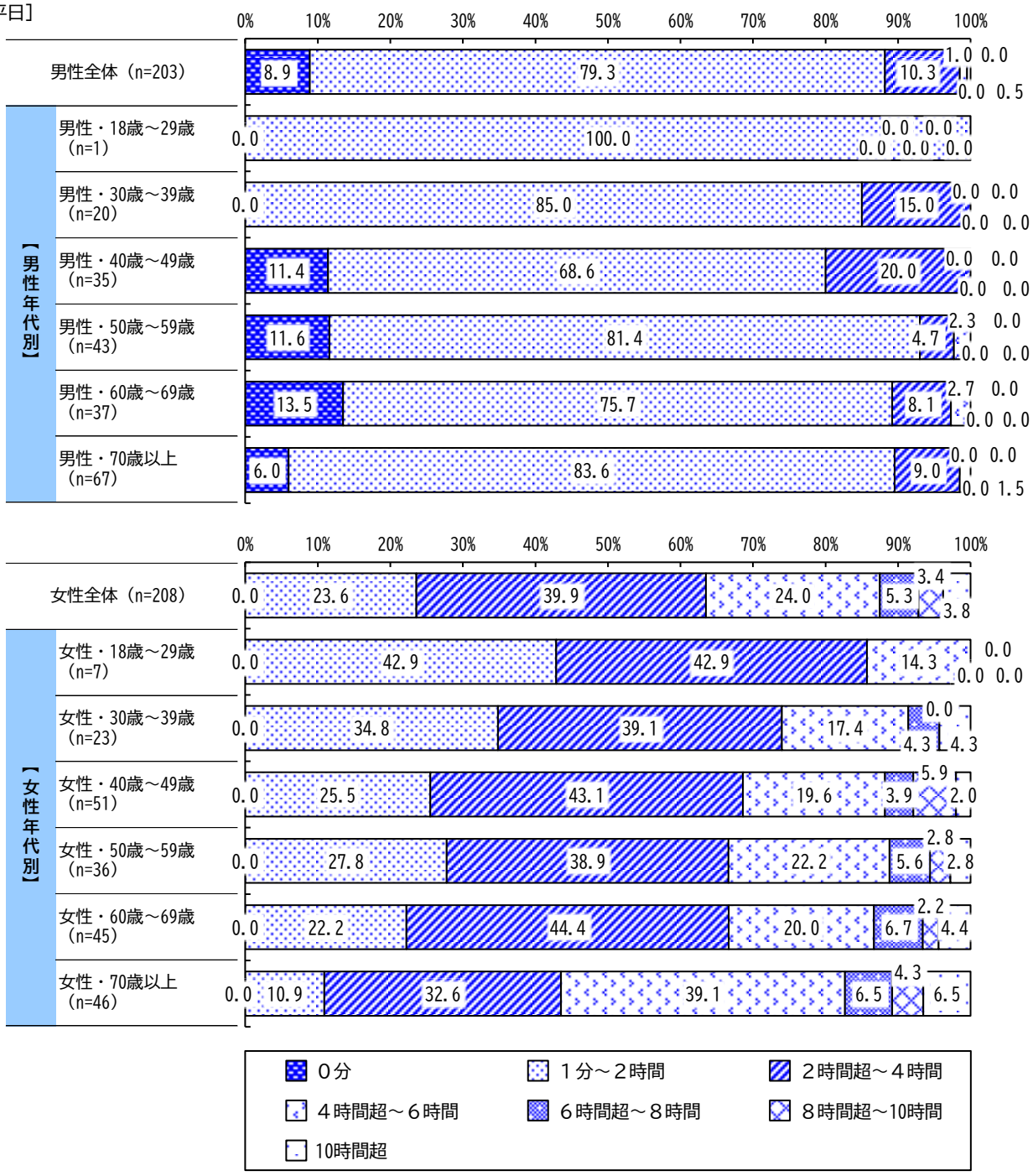
【性別】



※全体から無回答を除いて再集計しています。

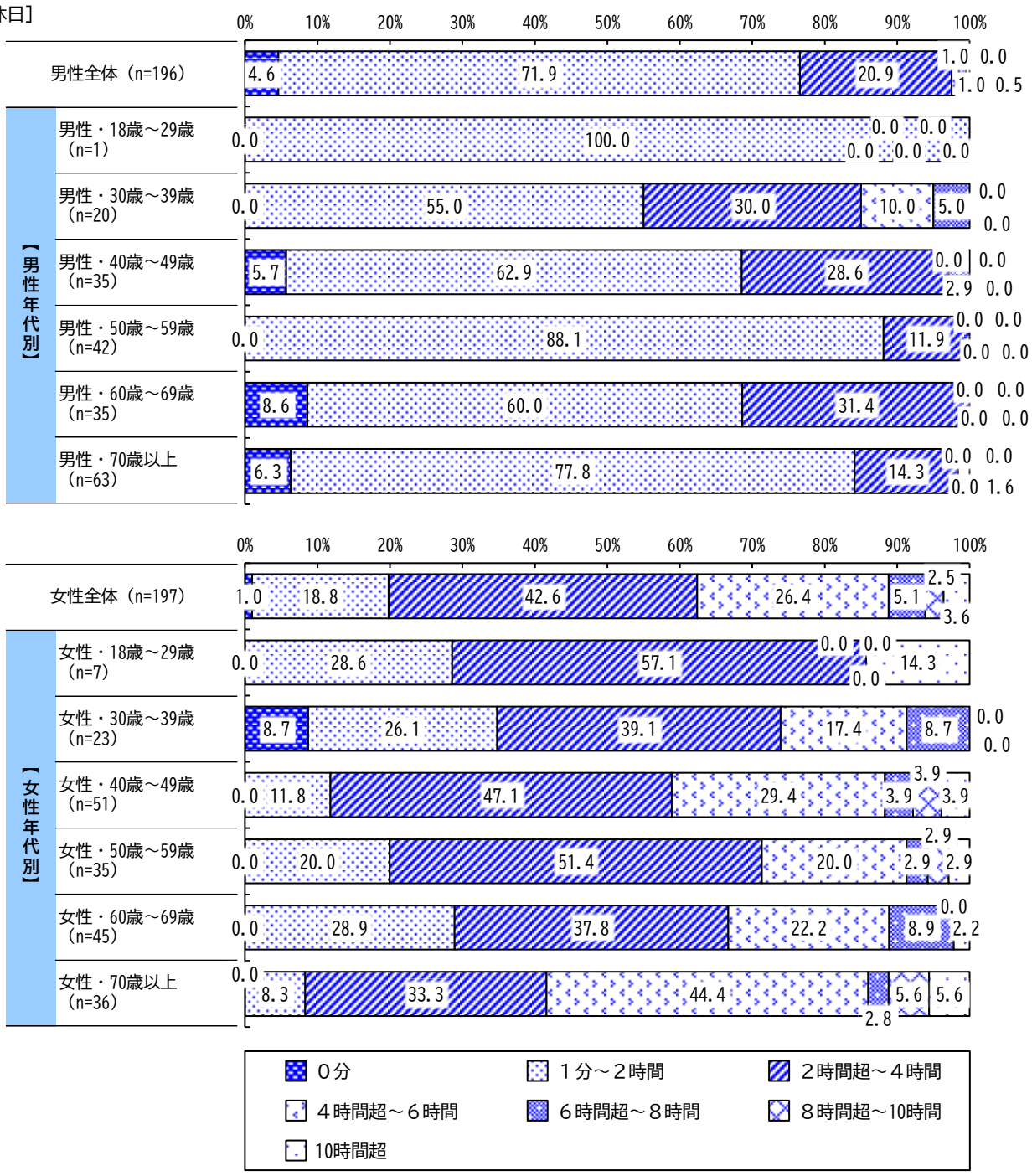
【①あなた（回答者）の家事にかける時間　性・年代別】

［平日］



※全体から無回答を除いて再集計しています。

【①あなた（回答者）の家事にかける時間　性・年代別】

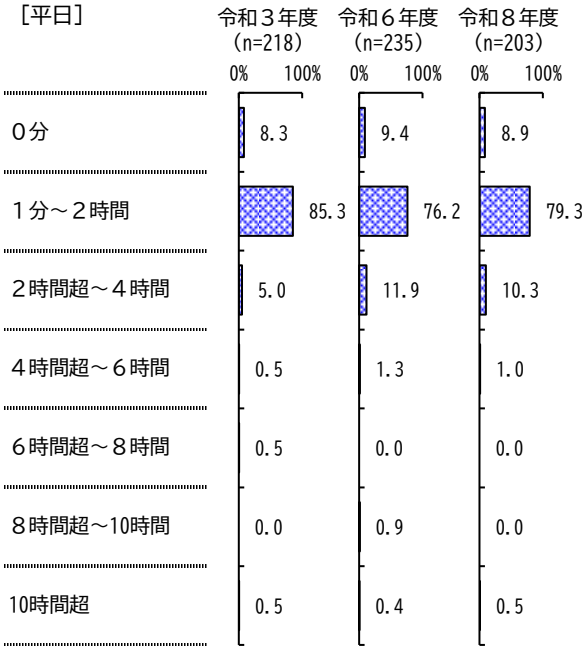


※全体から無回答を除いて再集計しています。

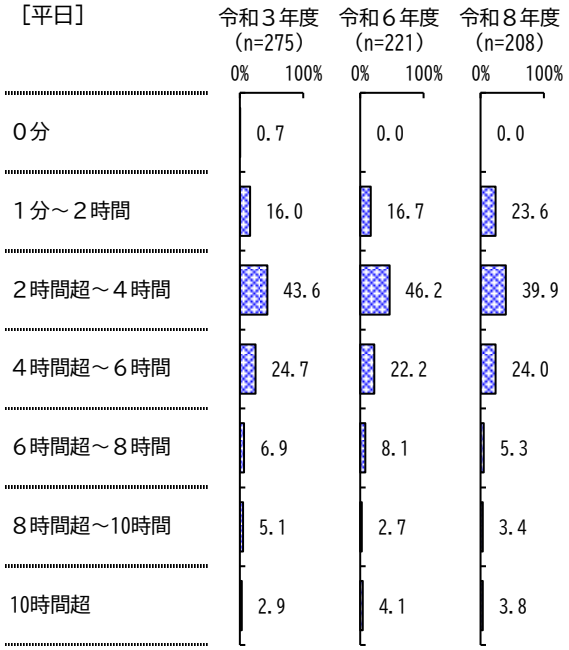
【①あなた（回答者）の家事にかける時間　経年比較】

※全体から「無回答」を除いて再集計しています。

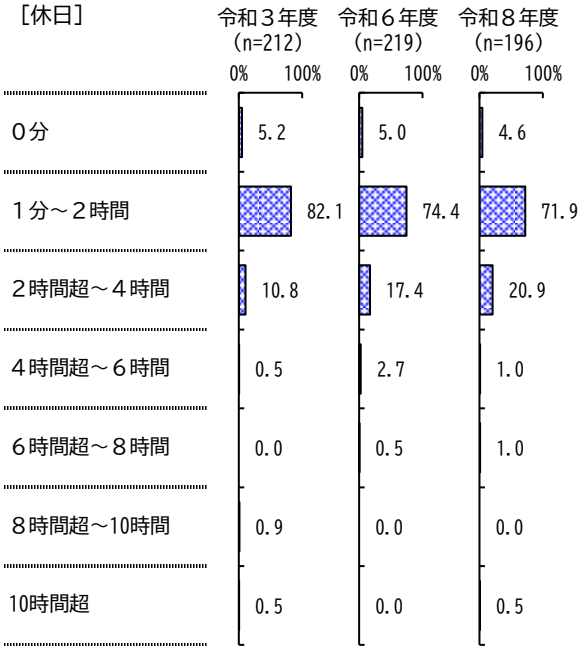
【男性】
［平日］



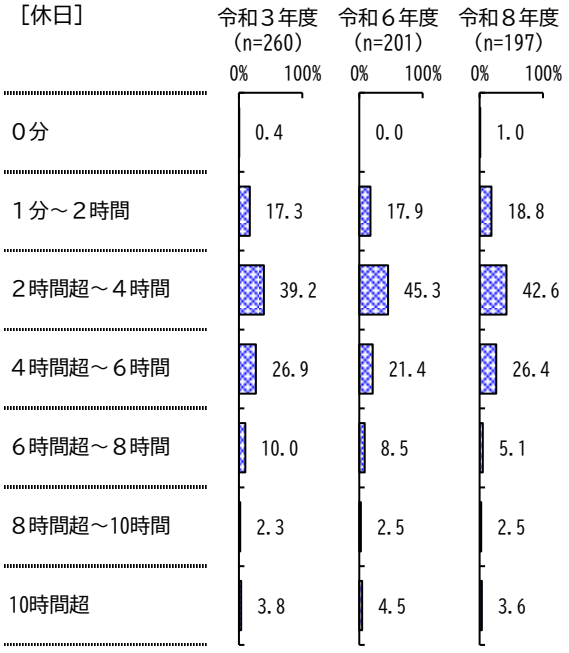
【女性】
［平日］



【男性】
［休日］



【女性】
［休日］



②配偶者の家事にかける時間

家事平均時間は、男性の配偶者（主に女性）は平日3.59時間、休日3.64時間、
女性の配偶者（主に男性）は平日0.93時間、休日1.29時間、
男性の配偶者（主に女性）の、平日の平均家事時間は女性の配偶者（主に男性）の約3.9倍。

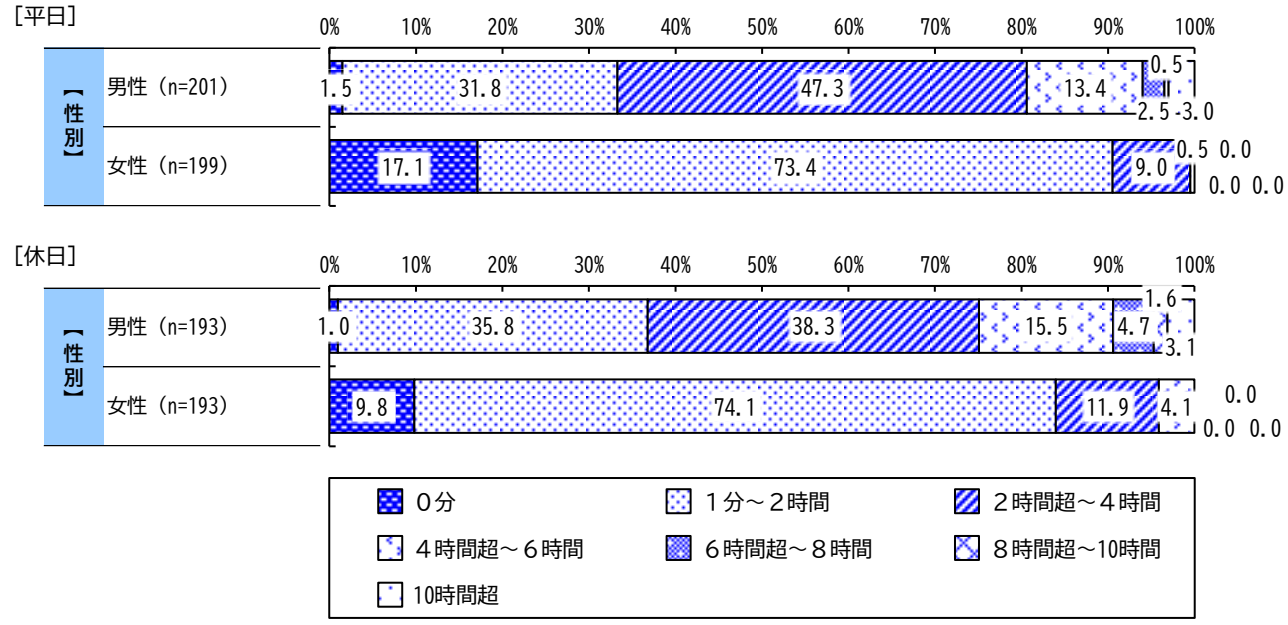
配偶者が家事にかける時間は、回答者が男性（配偶者は主に女性）の場合、最も高かったのは「２時間超～４時間」で、平日は47.3%、休日は38.3%となっています。回答者が女性（配偶者は主に男性）の場合、最も高かったのは「１分～２時間」で、平日は73.4%、休日は74.1%となっています。

配偶者の１日あたりの家事平均時間は、回答者が男性（配偶者は主に女性）の場合、平日3.59時間、休日3.64時間となっています。また、回答者が女性（配偶者は主に男性）の場合、平日0.93時間、休日1.29時間となっています。平日の配偶者の家事平均時間は、回答者が男性（配偶者は主に女性）の場合、回答者が女性（配偶者は主に男性）の場合の約3.9倍となっています。休日の配偶者の家事平均時間は、回答者が男性（配偶者は主に女性）の場合、回答者が女性（配偶者は主に男性）の場合の約2.8倍となっています。

性・年代別でみると、回答者が男性（配偶者は主に女性）の場合、平日はすべての年代で「２時間超～４時間」の割合が他の年代より高くなっています。また、40歳～49歳で休日の家事平均時間が４時間を超えています。回答者が女性（配偶者は主に男性）の場合、平日、休日ともにすべての年代で「１分～２時間」が最も高くなっています。

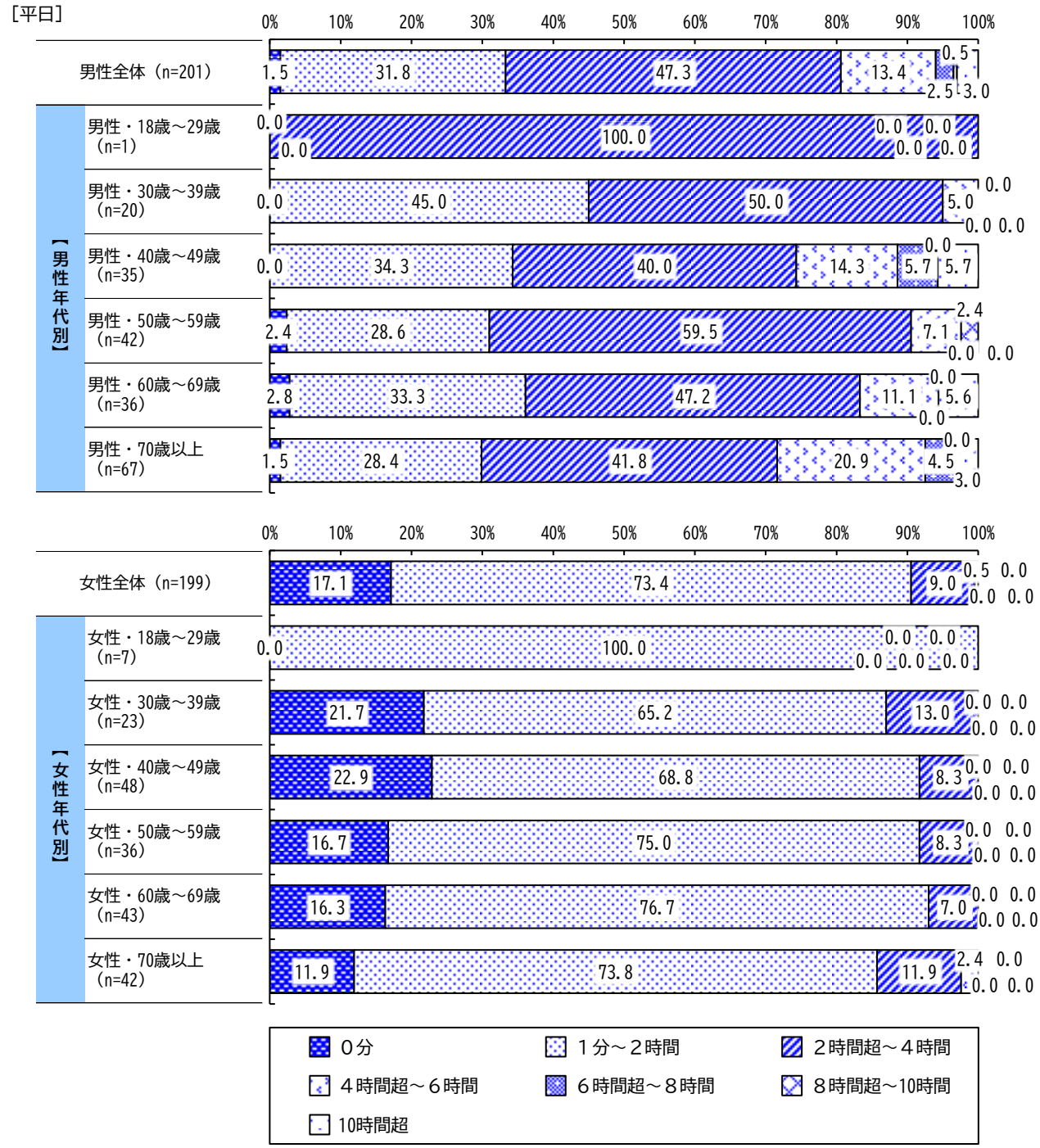
経年比較でみると、回答者が男性（配偶者は主に女性）の場合、平日の「２時間超～４時間」が増加し、「１分～２時間」がやや減少しています。回答者が女性（配偶者は主に男性）の場合、「１分～２時間」の平日の割合は減少し、休日の割合は増加しています。

【性別】



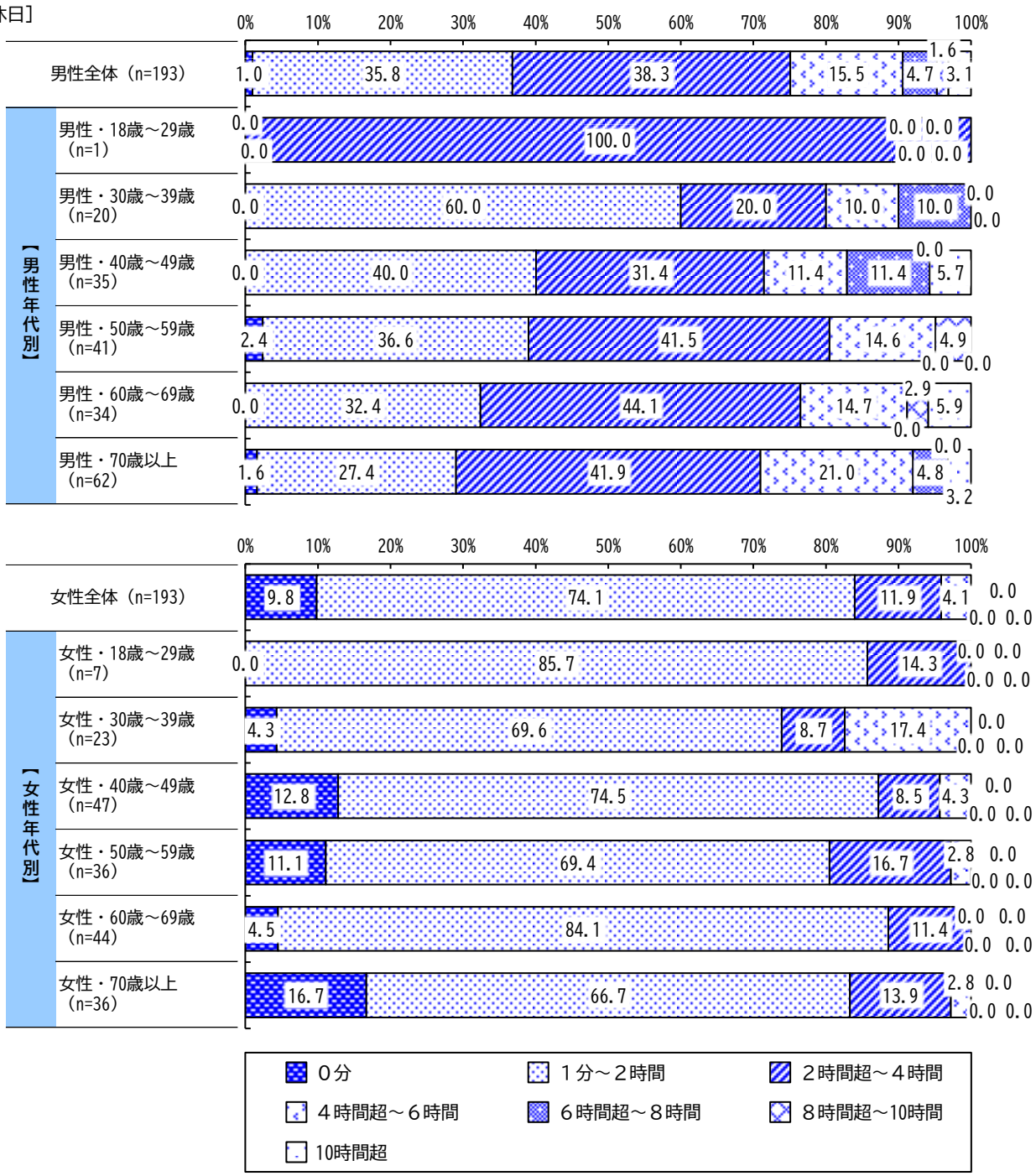
※性別は回答者の性別です。
※全体から無回答を除いて再集計しています。

【②配偶者の家事にかける時間　性・年代別】



※性別は回答者の性別です。
※全体から無回答を除いて再集計しています。

【②配偶者の家事にかける時間　性・年代別】

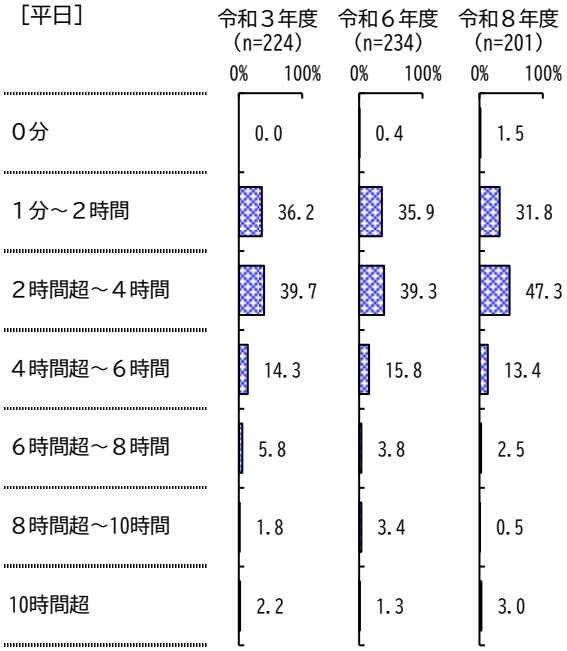


※性別は回答者の性別です。
※全体から無回答を除いて再集計しています。

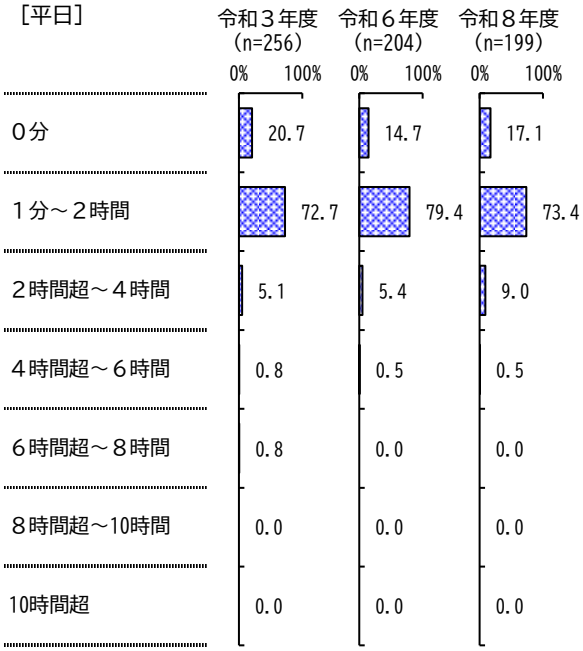
【②配偶者の家事にかける時間　経年比較】

※性別は回答者の性別です。
※全体から「無回答」を除いて再集計しています。

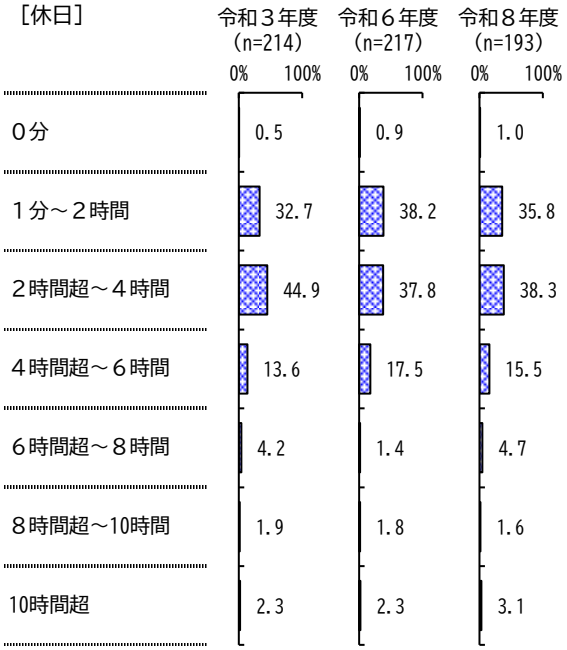
【男性】
［平日］



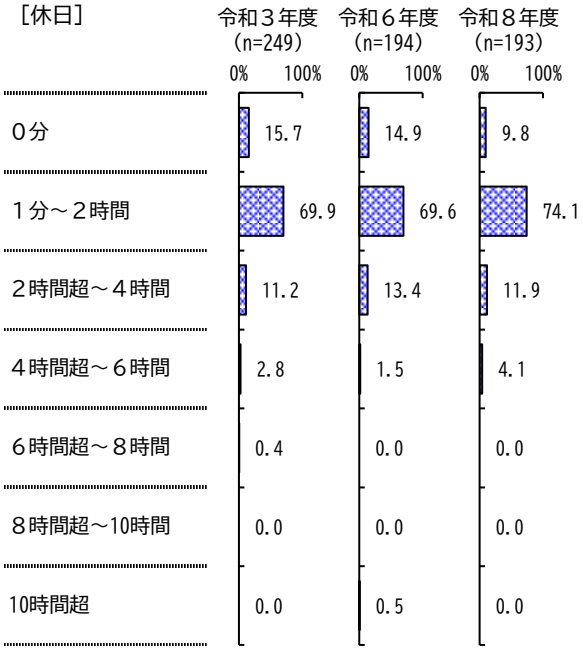
【女性】
［平日］



【男性】
［休日］



【女性】
［休日］



３．育児にかける時間

問13　あなたと配偶者（事実婚・パートナーを含む）の育児について伺います。育児を終えた方は過去の経験で結構です。
あなたと配偶者は、それぞれ１日の中で、育児を何時間ぐらいしていますか。（していましたか。）平日と休日に分けてお答えください。

①あなた（回答者）の育児にかける時間

**男性は平日、休日ともに「1分～2時間」、
女性は平日、休日ともに「10時間超」が最も高く、
女性の平均育児時間は平日で男性の約5.7倍、休日で男性の約2.5倍。**

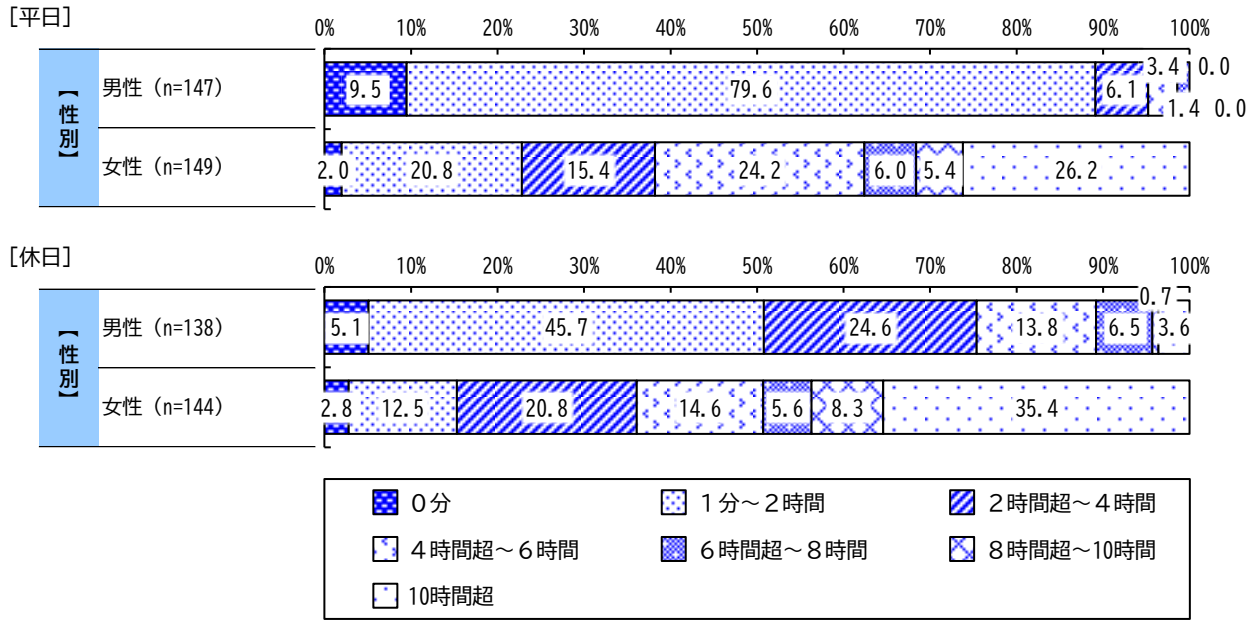
回答者が育児にかける時間は、男性の場合、平日は「１分～２時間」が79.6%、休日も同様に「１分～２時間」が45.7%と最も高く、女性の場合、平日は「10時間超」が26.2%、休日も同様に「10時間超」が35.4%と最も高くなっています。

男性の１日あたりの育児平均時間は、平日1.32時間、休日3.40時間となっています。また、女性の１日あたりの育児平均時間は、平日7.56時間、休日8.61時間となっています。女性の育児平均時間は、平日で男性の約5.7倍、休日で男性の約2.5倍となっています。

性・年代別でみると、男性の場合、平日はすべての年代で「１分～２時間」が最も高くなっています。女性の場合、休日は50歳～59歳を除くすべての年代で「10時間超」（30歳～39歳では「８時間超～10時間」と同率）が最も高くなっています。

経年比較でみると、女性は平日、休日ともに「１分～２時間」と「10時間超」が前回調査より増加しています。

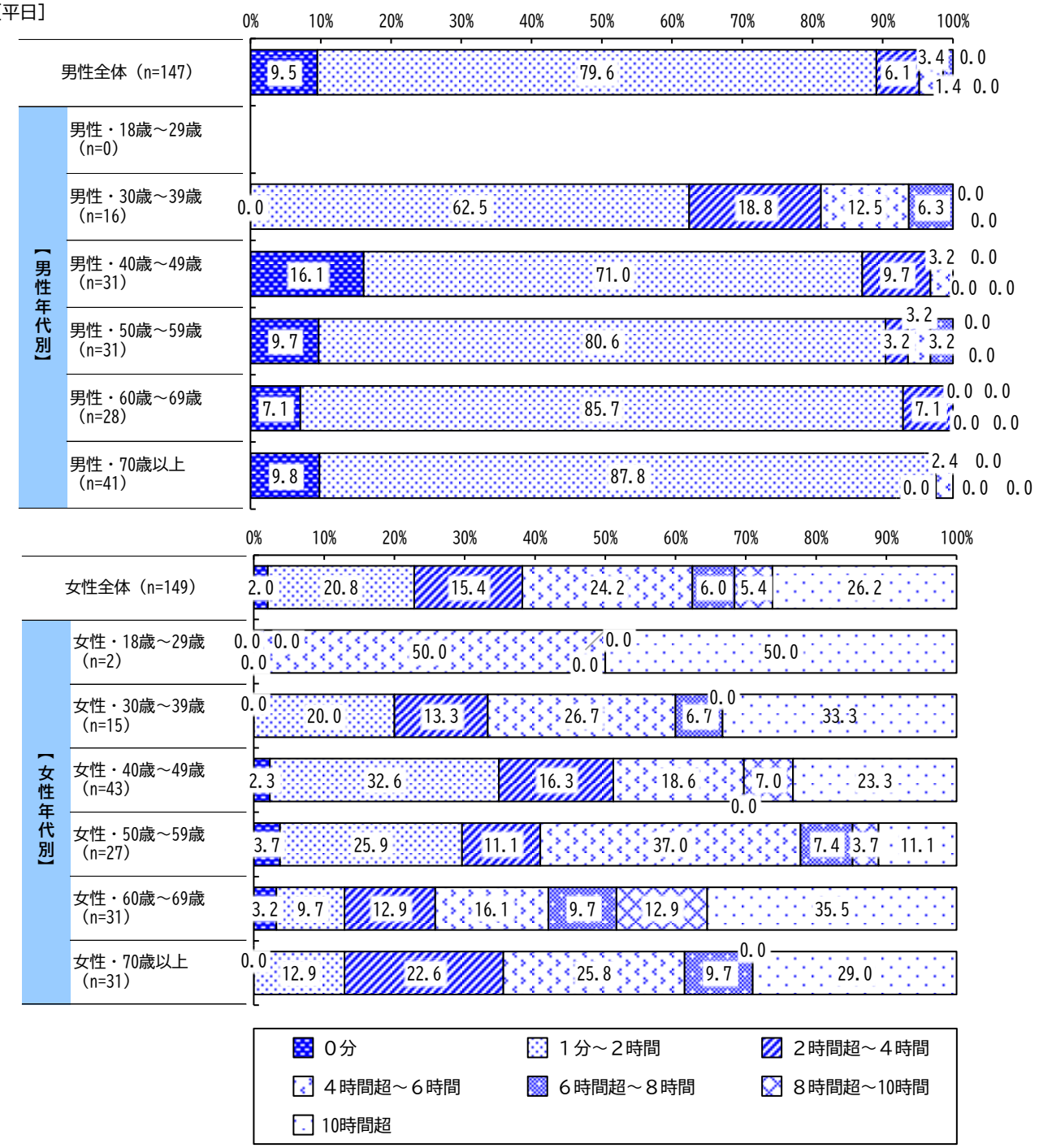
【性別】



※全体から無回答を除いて再集計しています。

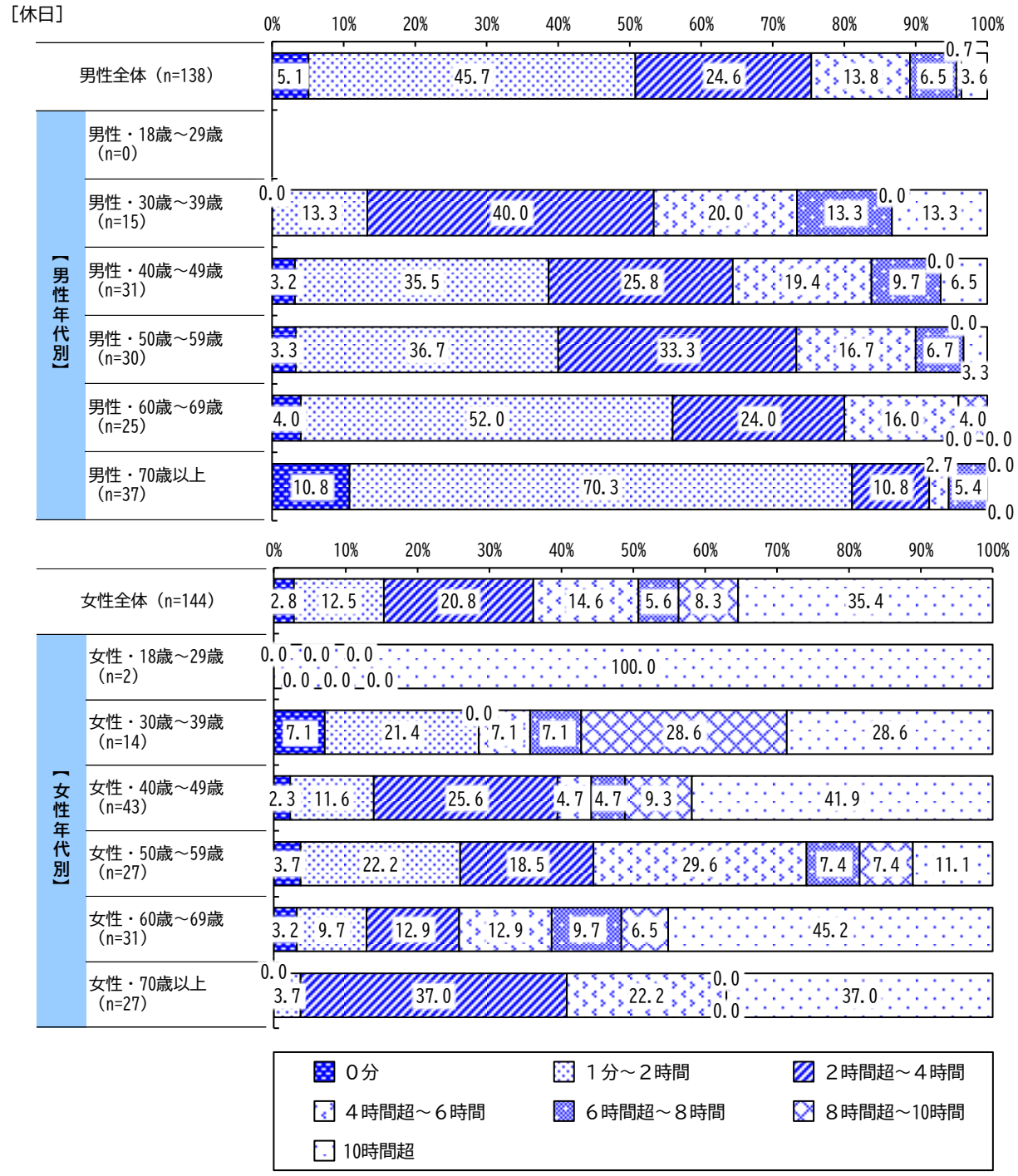
【①あなた（回答者）の育児にかける時間　性・年代別】

［平日］



※全体から無回答を除いて再集計しています。

【①あなた（回答者）の育児にかける時間　性・年代別】

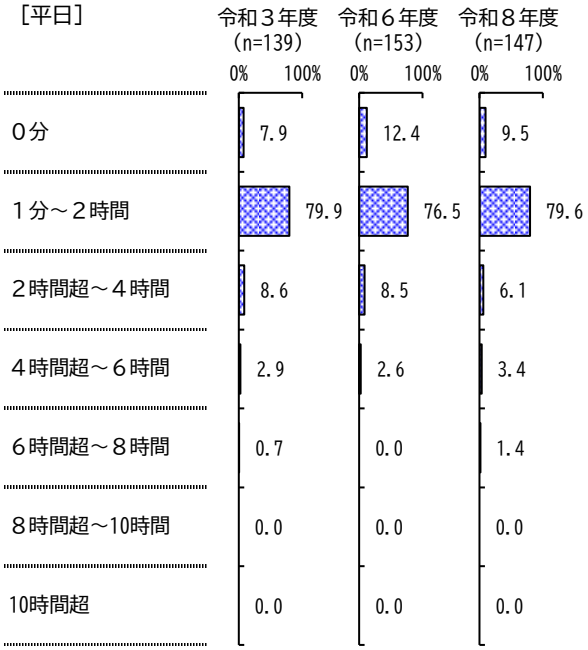


※全体から無回答を除いて再集計しています。

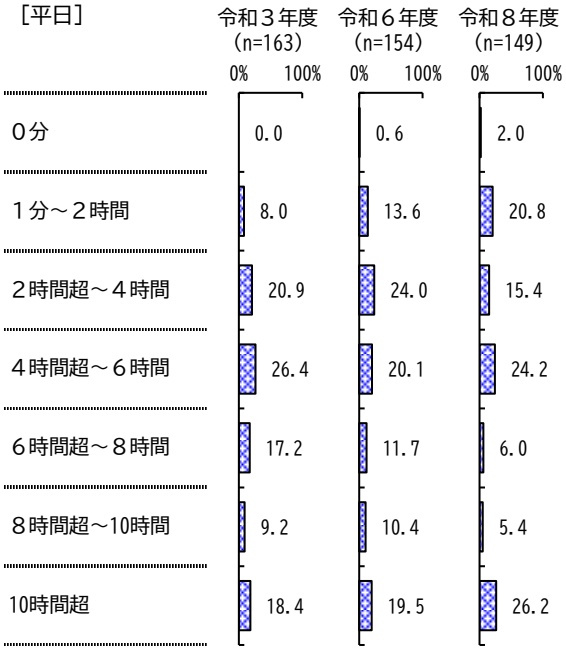
【①あなた（回答者）の育児にかける時間　経年比較】

※全体から「無回答」を除いて再集計しています。

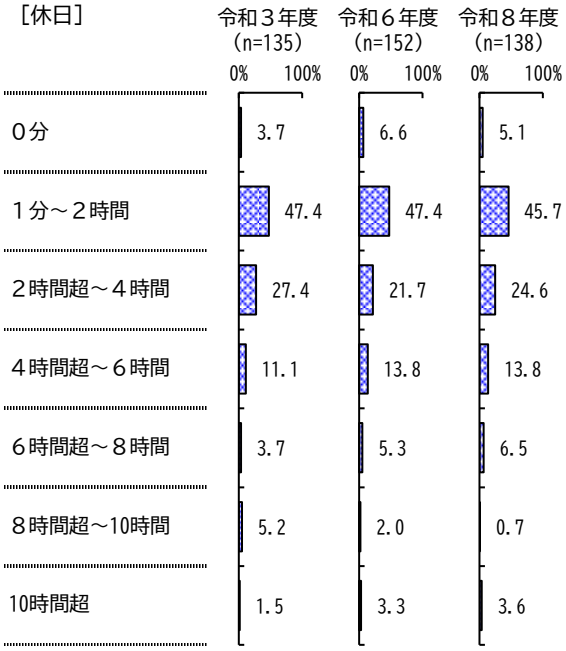
【男性】
［平日］



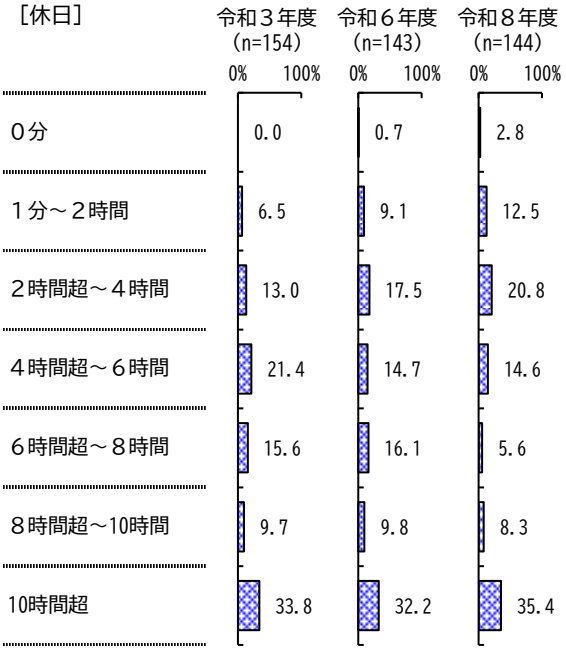
【女性】
［平日］



【男性】
［休日］



【女性】
［休日］



②配偶者の育児にかける時間

育児平均時間は、男性の配偶者(主に女性)は平日5.47時間、休日5.73時間、
女性の配偶者(主に男性)は平日1.47時間、休日3.57時間、
男性の配偶者(主に女性)の、平日の平均育児時間は女性の配偶者(主に男性)の約3.7倍。

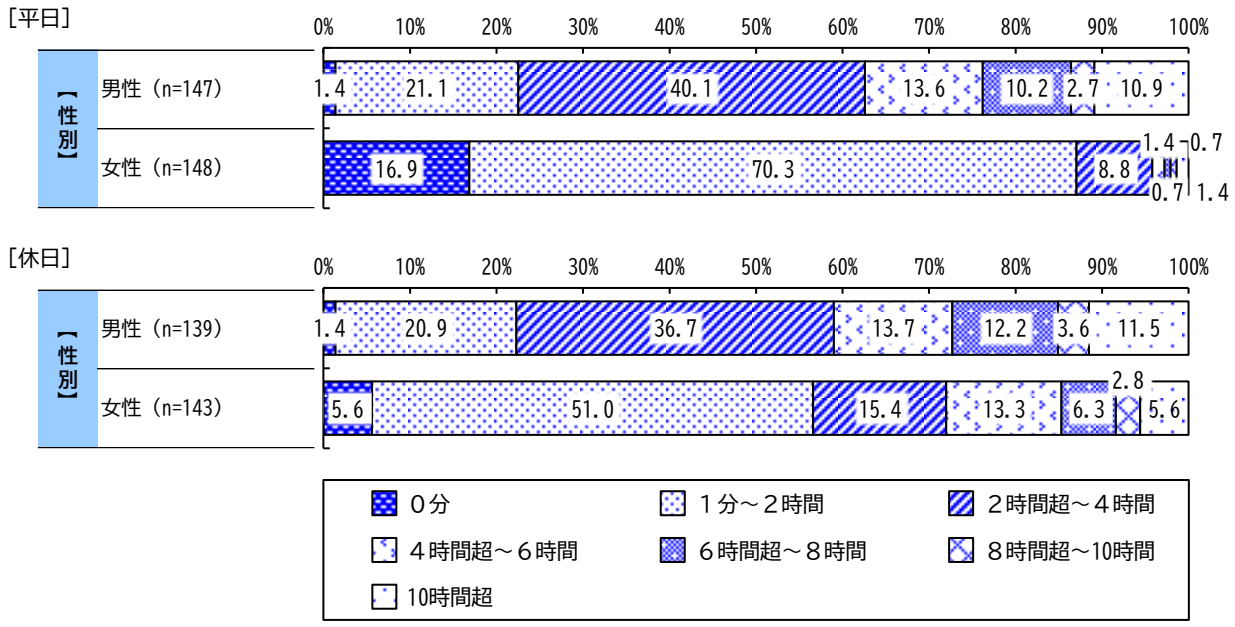
配偶者が育児にかける時間は、回答者が男性（配偶者は主に女性）の場合、平日は「２時間超～４時間」が40.1%、休日も同様に「２時間超～４時間」が36.7%と最も高く、回答者が女性（配偶者は主に男性）の場合、平日は「１分～２時間」が70.3%、休日も同様に「１分～２時間」が51.0%と最も高くなっています。

配偶者の１日あたりの育児平均時間は、回答者が男性（配偶者は主に女性）の場合、平日5.47時間、休日5.73時間となっています。また、回答者が女性（配偶者は主に男性）の場合、平日1.47時間、休日3.57時間となっています。平日の配偶者の育児平均時間は、回答者が男性（配偶者は主に女性）の場合、回答者が女性（配偶者は主に男性）の場合の約3.7倍となっています。休日の配偶者の育児平均時間は、回答者が男性（配偶者は主に女性）の場合、回答者が女性（配偶者は主に男性）の場合の約1.6倍となっています。

性・年代別でみると、回答者が男性（配偶者は主に女性）の場合、平日はすべての年代で「２時間超～４時間」が最も高くなっています。回答者が女性（配偶者は主に男性）の場合、平日、休日ともにすべての年代で「１分～２時間」の割合が最も高くなっています。

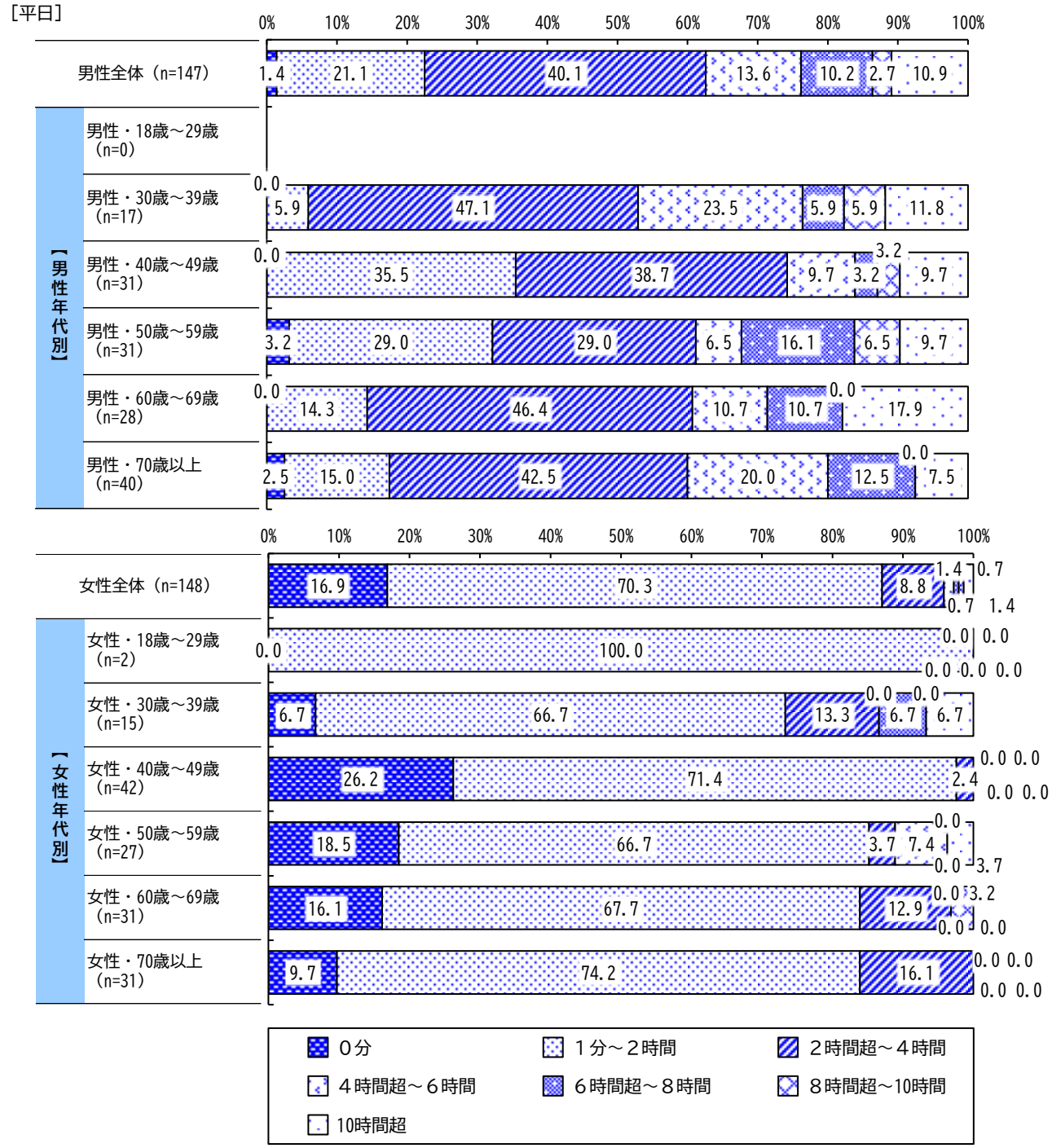
経年比較でみると、回答者が男性（配偶者は主に女性）の場合で、休日の「２時間超～４時間」が増加し、「４時間超～６時間」が減少しています。回答者が女性（配偶者は主に男性）の場合で、休日の「１分～２時間」がやや増加し、「２時間超～４時間」がやや減少しています。

【性別】



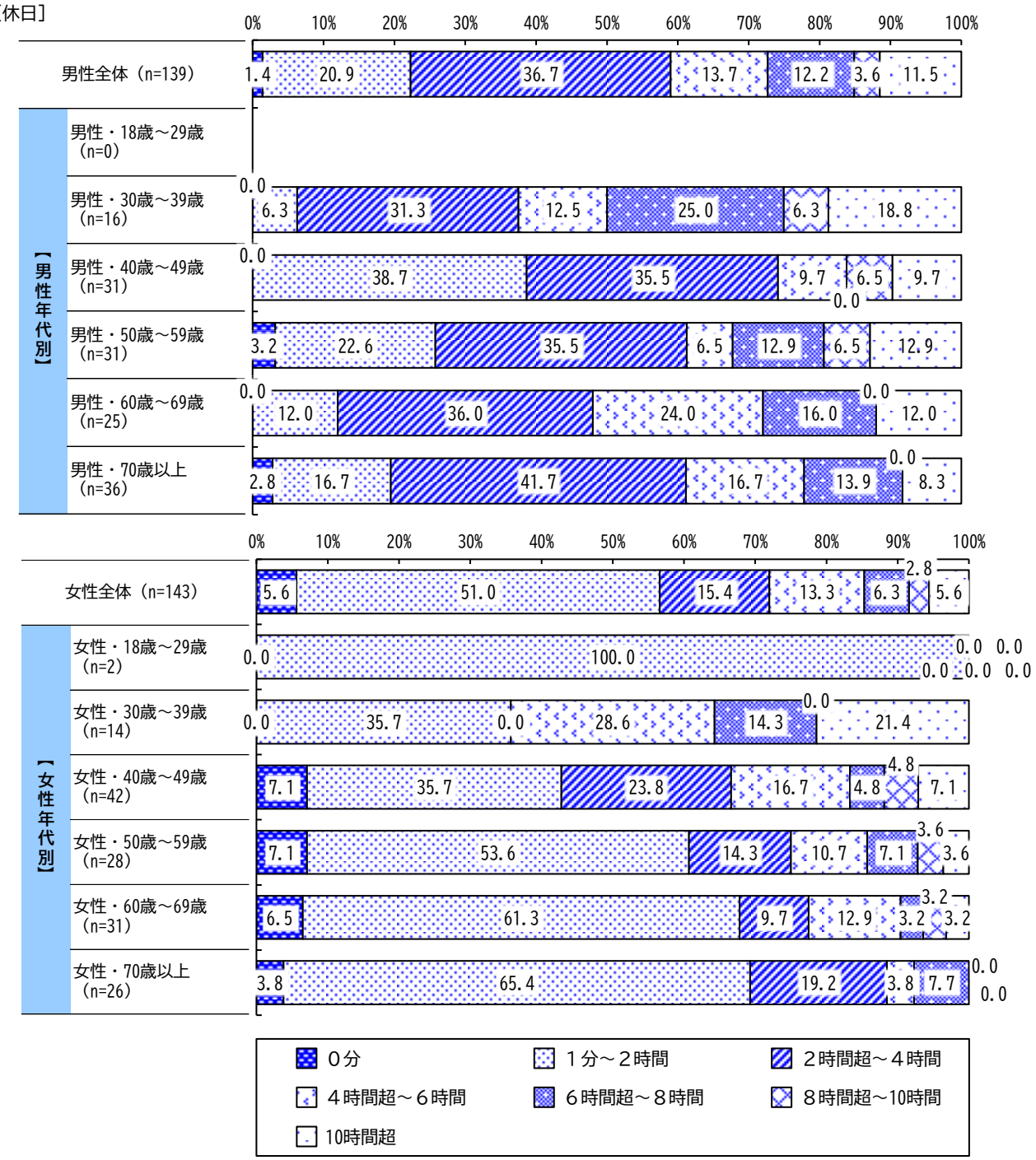
※性別は回答者の性別です。
※全体から無回答を除いて再集計しています。

【②配偶者の育児にかける時間　性・年代別】



※性別は回答者の性別です。
※全体から無回答を除いて再集計しています。

【②配偶者の育児にかける時間　性・年代別】

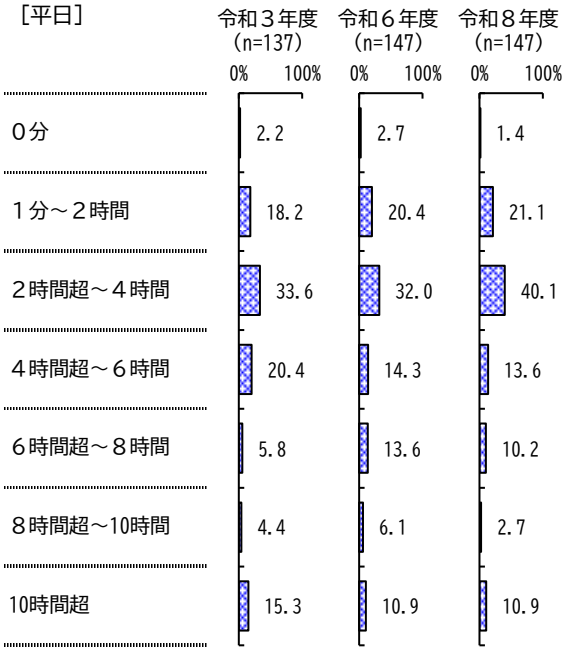


※性別は回答者の性別です。
※全体から無回答を除いて再集計しています。

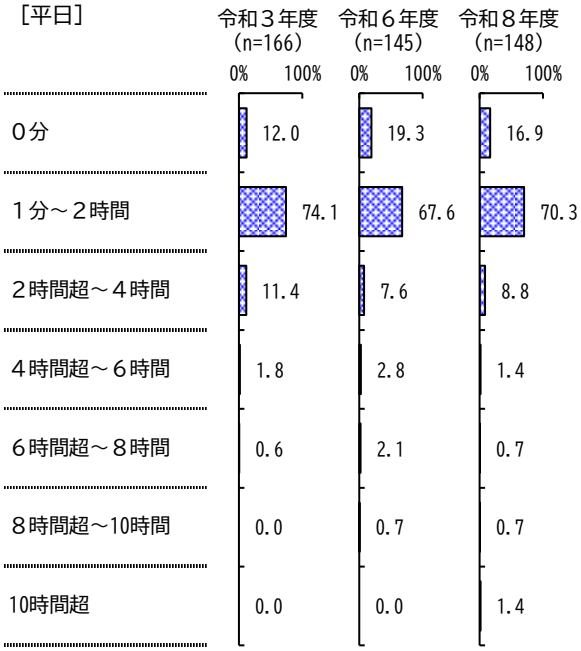
【②配偶者の育児にかける時間　経年比較】

※性別は回答者の性別です。
※全体から「無回答」を除いて再集計しています。

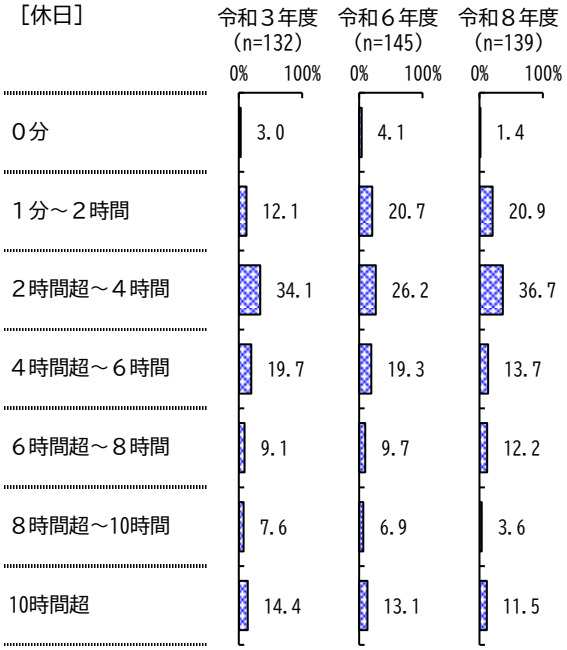
【男性】
［平日］



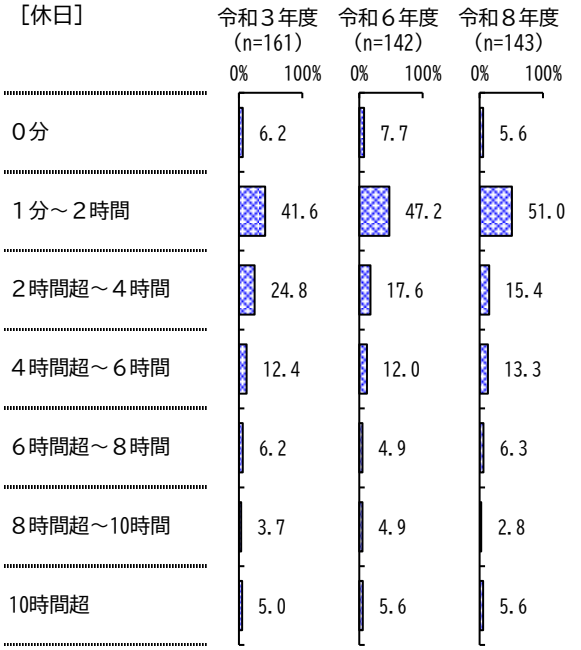
【女性】
［平日］



【男性】
［休日］



【女性】
［休日］



４. 男性が育児・介護・家事、地域活動に積極的に参加するために必要なこと

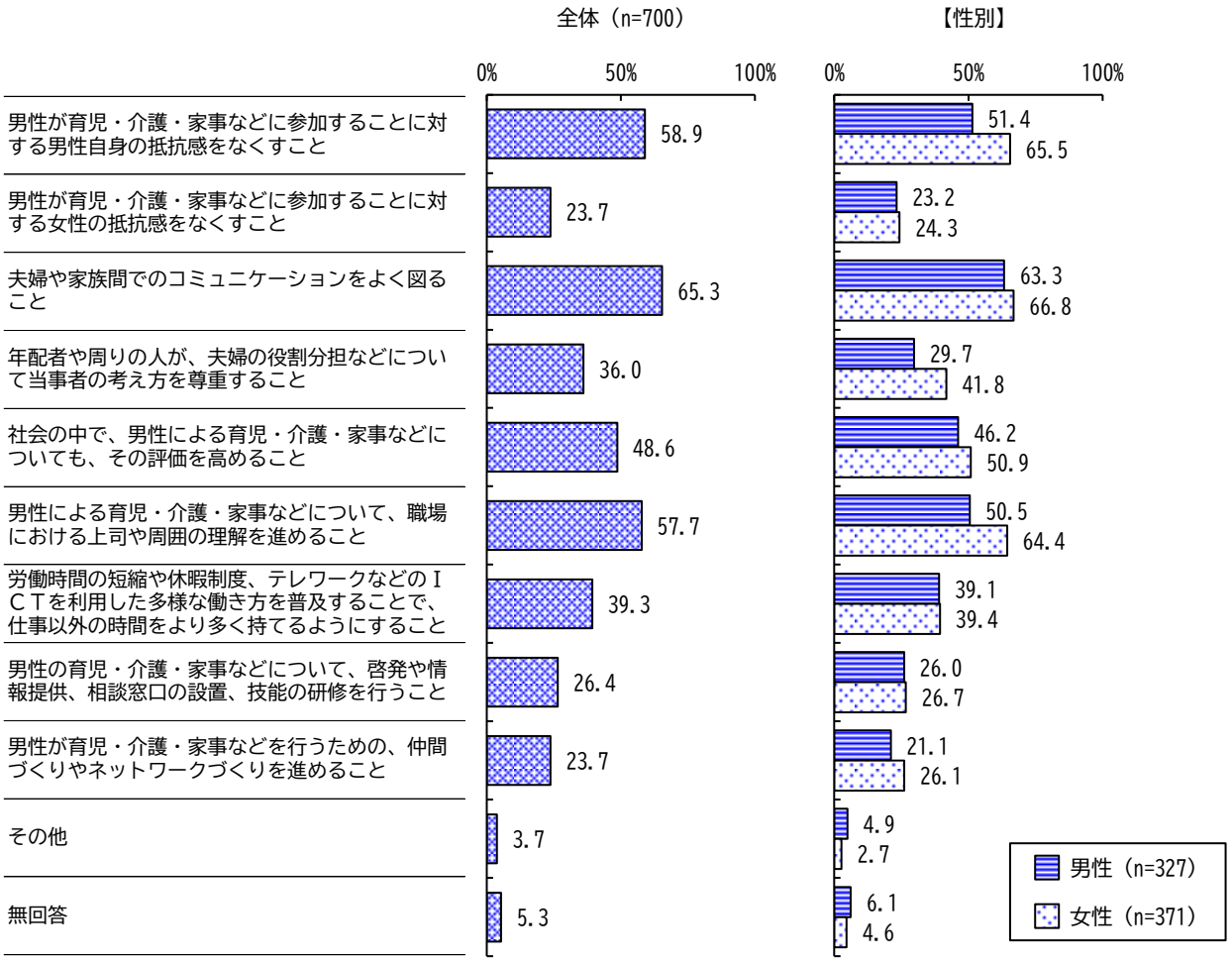
問14　あなたは、今後、男性が育児・介護・家事、地域活動に積極的に参加していくためにはどのようなことが必要だと思いますか。（あてはまるもの全てに○）

「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図ること」が65.3%。

男性が育児・介護・家事、地域活動に積極的に参加していくために必要だと思うことは「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図ること」が65.3%と最も高く、次に「男性が育児・介護・家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」が58.9%、「男性による育児・介護・家事などについて、職場における上司や周囲の理解を進めること」が57.7%となっています。

性別でみると、全ての項目で女性が男性より高い割合となり、「男性が育児・介護・家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」（14.1ポイント差）、「男性による育児・介護・家事などについて、職場における上司や周囲の理解を進めること」（13.9ポイント差）、「年配者や周りの人が、夫婦の役割分担などについて当事者の考え方を尊重すること」（12.1ポイント差）などとなっており、男女間で差がみられます。

【全体・性別】



5　意思決定の過程への女性の参画について

1. 管理的部門や指導的地位への女性登用が少ない理由

問15　企業等において、意思決定を行う管理的部門や指導的地位への女性登用が未だ少ないのが現状です。あなたは、その理由としてどのようなものがあると考えますか。（３つまでに○）

「社会的･文化的に、性別によって役割を固定する考え方や意識が残っているから」が53.0%。

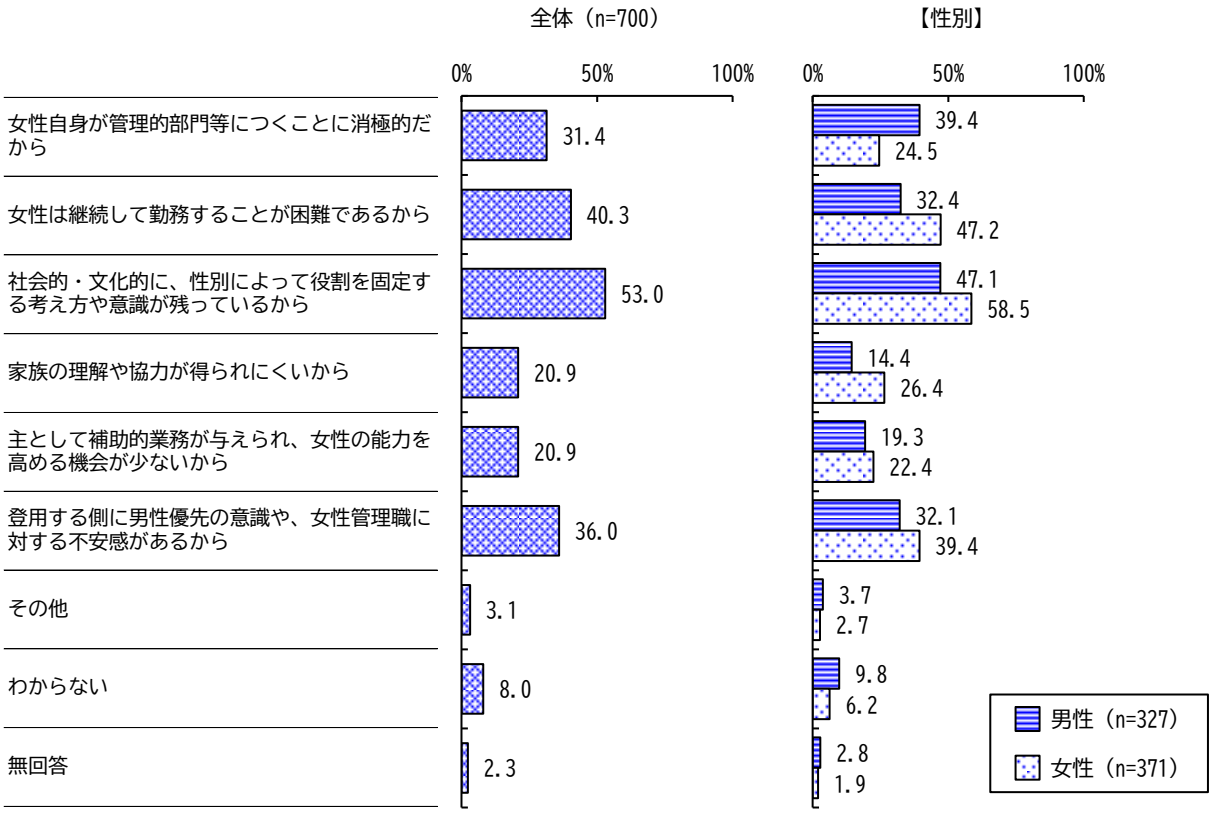
管理的部門や指導的地位への女性登用が少ない理由についてたずねたところ、「社会的・文化的に、性別によって役割を固定する考え方や意識が残っているから」が53.0%と最も高く、次に「女性は継続して勤務することが困難であるから」が40.3%、「登用する側に男性優先の意識や、女性管理職に対する不安感があるから」が36.0%となっています。

性別でみると、男性、女性ともに「社会的・文化的に、性別によって役割を固定する考え方や意識が残っているから」が最も高く、それぞれ47.1%、58.5%となっています。一方、男性が女性より高い割合となっている項目は「女性自身が管理的部門等につくことに消極的だから」（14.9ポイント差）、女性が男性より高い割合となっている項目は「女性は継続して勤務することが困難であるから」（14.8ポイント差）、「家族の理解や協力が得られにくいから」（12.0ポイント差）、「社会的・文化的に、性別によって役割を固定する考え方や意識が残っているから」（11.4ポイント差）などとなっており、これらの項目では男女間で差がみられます。

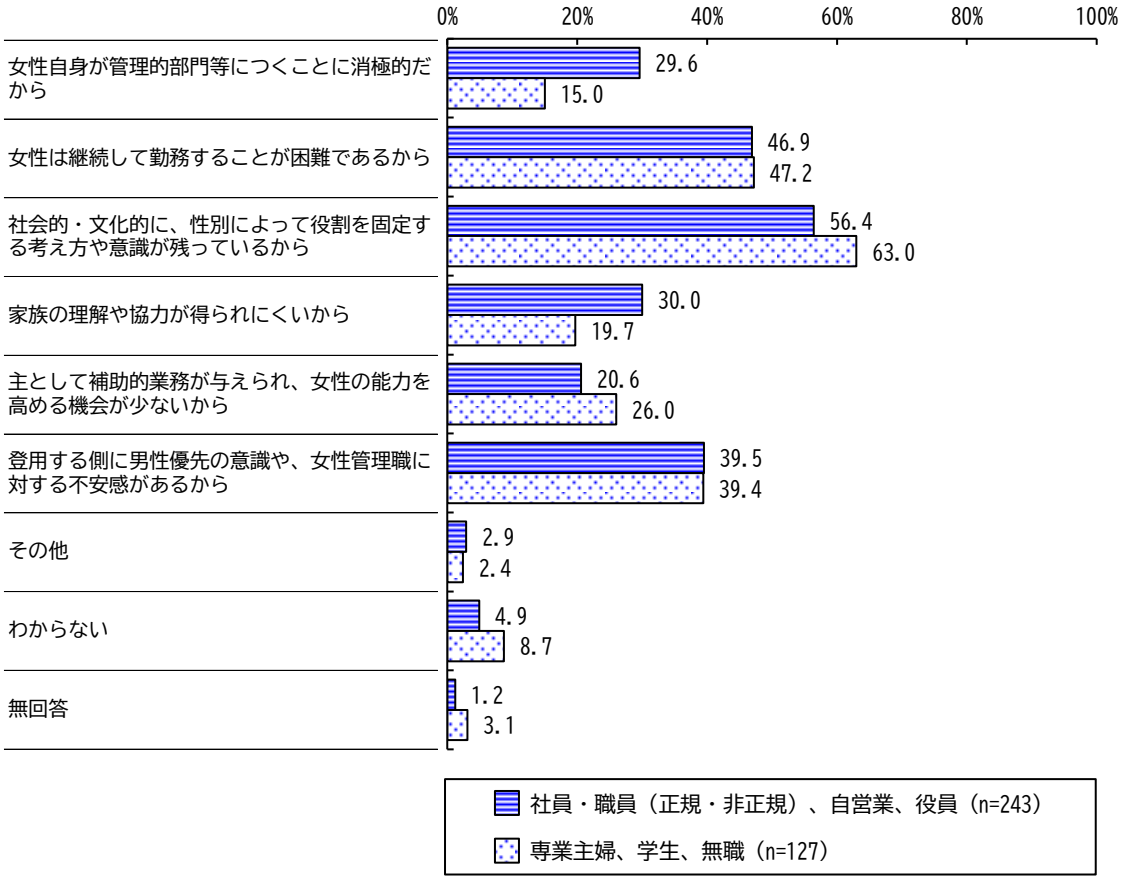
女性の職業の有無別でみると、「女性自身が管理的部門等につくことに消極的だから」の割合で14.6ポイントの差があります。

経年比較でみると、今年度調査で「登用する側に男性優先の意識や、女性管理職に対する不安感があるから」の割合がやや増加しています。

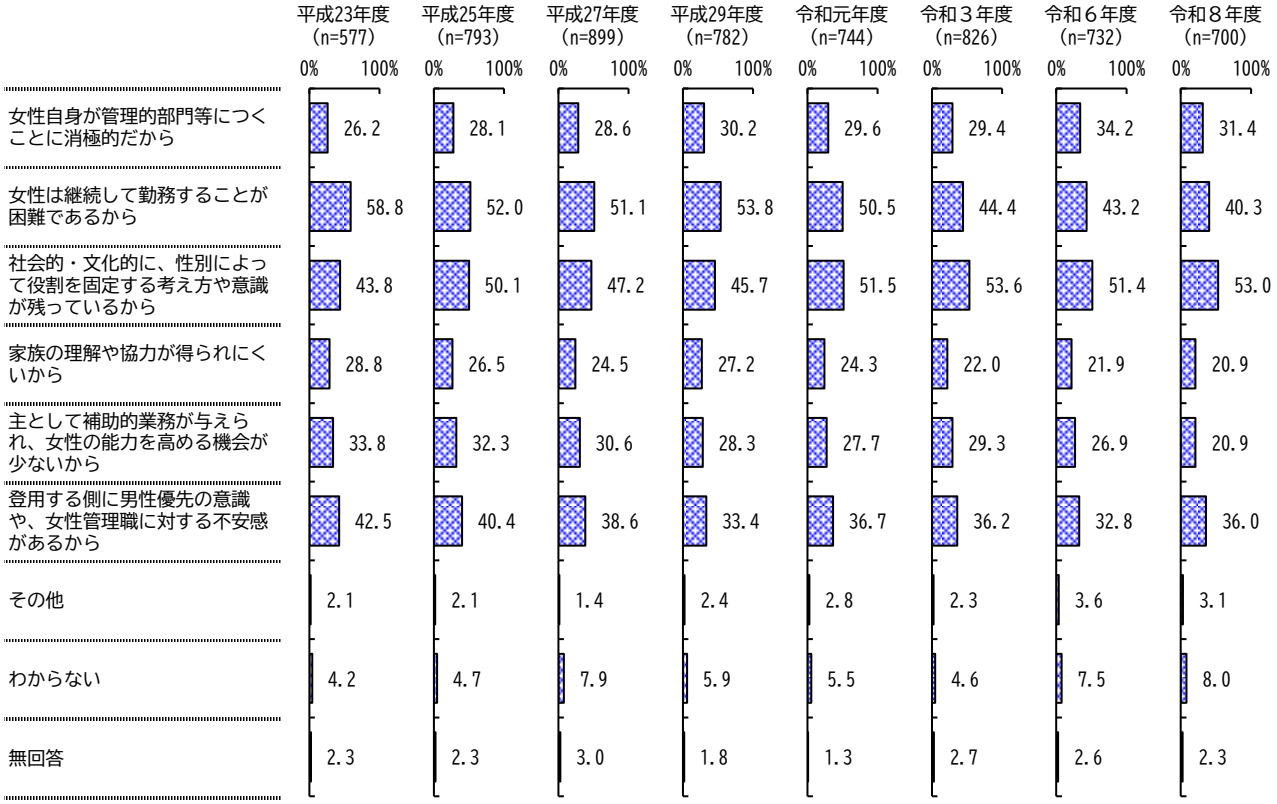
【全体・性別】



【女性の職業の有無別】



【経年比較】



2. 女性が自治会の長などの役職につくことが少ない理由

問16　地域活動において、女性が自治会の長などの役職につくことが少ないのが現状です。あなたは、その理由としてどのようなものがあると考えますか。（３つまでに○）

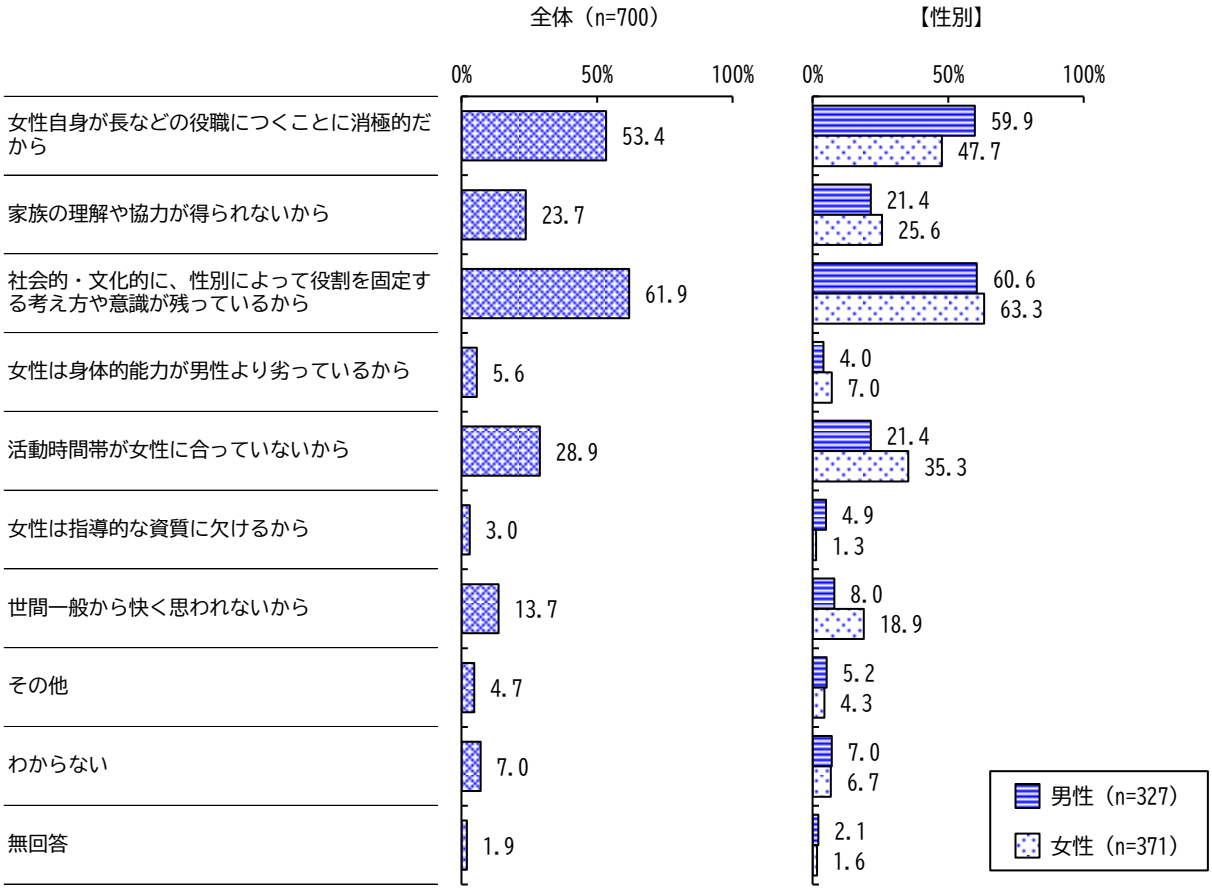
「社会的･文化的に、性別によって役割を固定する考え方や意識が残っているから」が61.9%、「女性自身が長などの役職につくのに消極的だから」が53.4%。

地域活動において、女性が自治会の長などの役職につくことが少ない理由についてたずねたところ、「社会的・文化的に、性別によって役割を固定する考え方や意識が残っているから」が61.9%と最も高く、次に「女性自身が長などの役職につくことに消極的だから」が53.4%、「活動時間帯が女性に合っていないから」が28.9%となっています。

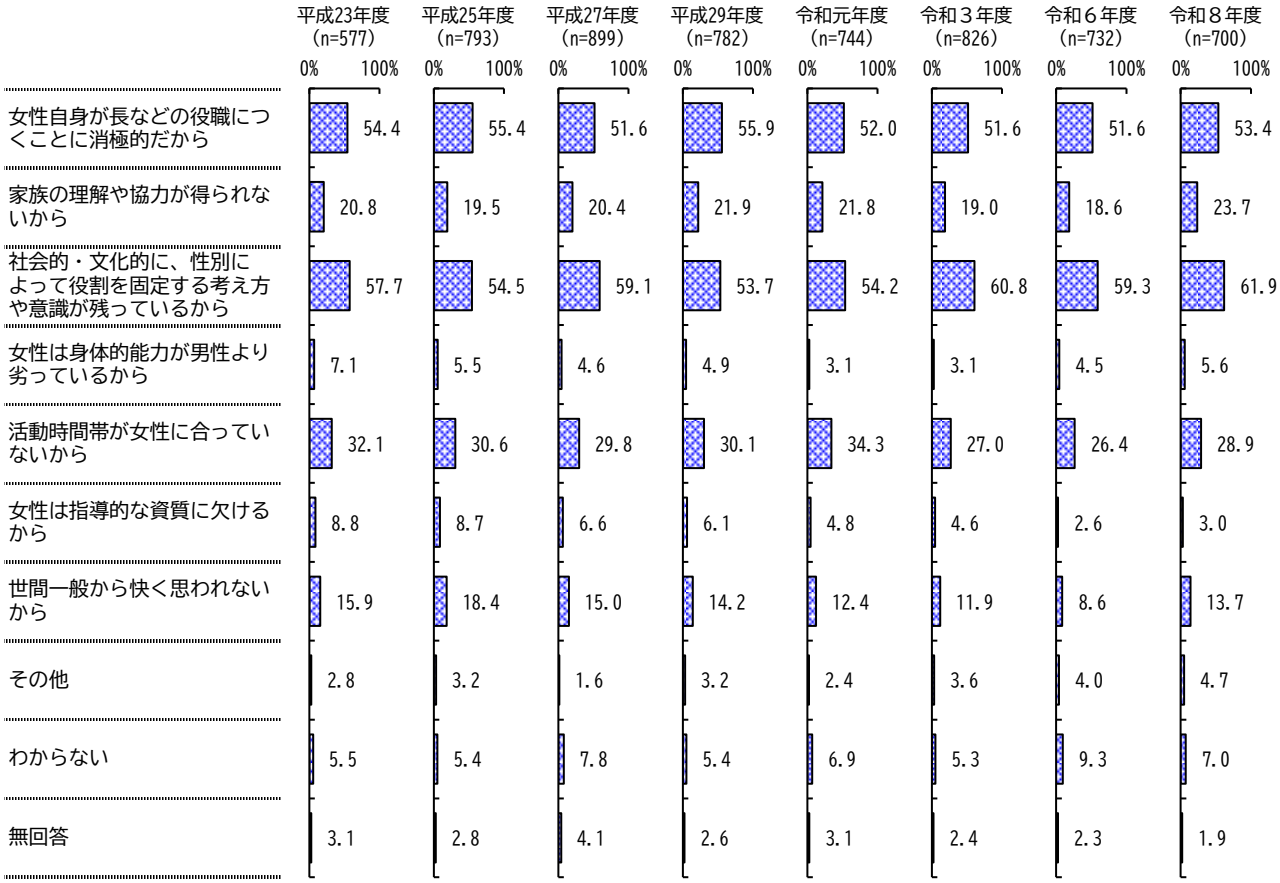
性別でみると、「女性自身が長などの役職につくことに消極的だから」は男性が女性より高い割合となり（12.2ポイント差)、「活動時間帯が女性に合っていないから」は女性が男性より高い割合（13.9ポイント差）となっています。

経年比較でみると、今年度調査で「家族の理解や協力が得られないから」と「世間一般から快く思われないから」の割合が増加しています。また、「女性自身が長などの役職につくことに消極的だから」は５割強で推移しています。

【全体・性別】



【経年比較】



※「女性自身が長などの役職につくことに消極的だから」は令和６年度まで「女性自身が長などの役職につくのに消極的だから」

6　男女が共に能力を発揮できる就業環境について

1. 女性が働く上で障害となること

問17　継続して女性が働く上での障害は何だと思いますか。（あてはまるもの全てに○）

「結婚･出産時の退職等の慣行」が55.3%、
他には育児休業･介護休業の取得や制度が取得しにくい環境、長時間労働や残業が上位。

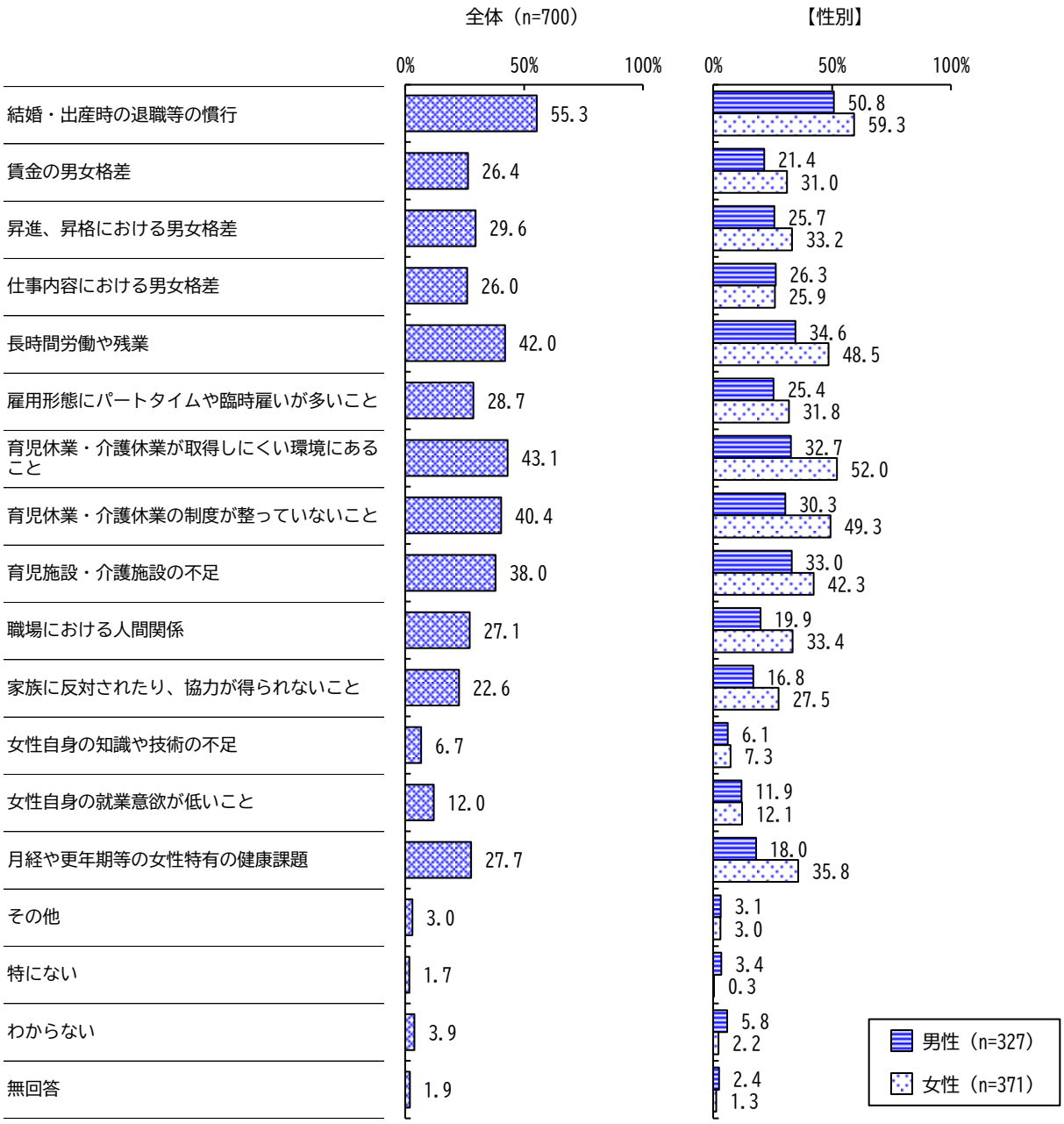
継続して女性が働く上での障害についてたずねたところ、「結婚・出産時の退職等の慣行」が55.3%と最も高く、次に「育児休業・介護休業が取得しにくい環境にあること」が43.1%、「長時間労働や残業」が42.0%、「育児休業・介護休業の制度が整っていないこと」が40.4%となっています。

性別でみると、女性が男性より高い割合となっている項目は「育児休業・介護休業が取得しにくい環境にあること」（19.3ポイント差）、「育児休業・介護休業の制度が整っていないこと」（19.0ポイント差）、「月経や更年期等の女性特有の健康課題」（17.8ポイント差）などとなっており、これらの項目では男女間で差がみられます。

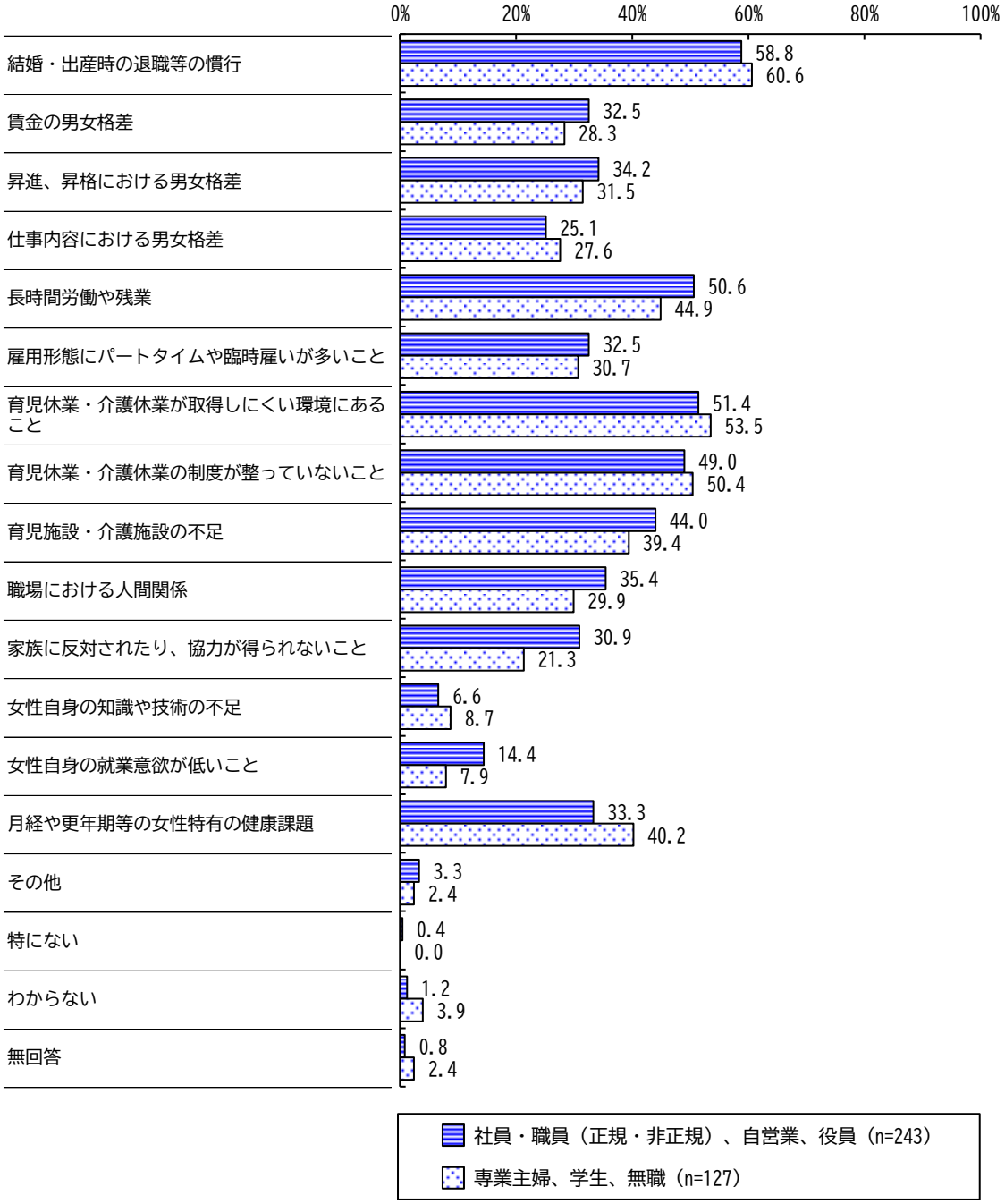
女性の職業の有無別でみると、職業の有無にかかわらず、「結婚・出産時の退職等の慣行」が最も高くなっています。

経年比較でみると、今年度調査で「結婚・出産時の退職等の慣行」の割合が大幅に増加し、過去最高となっています。

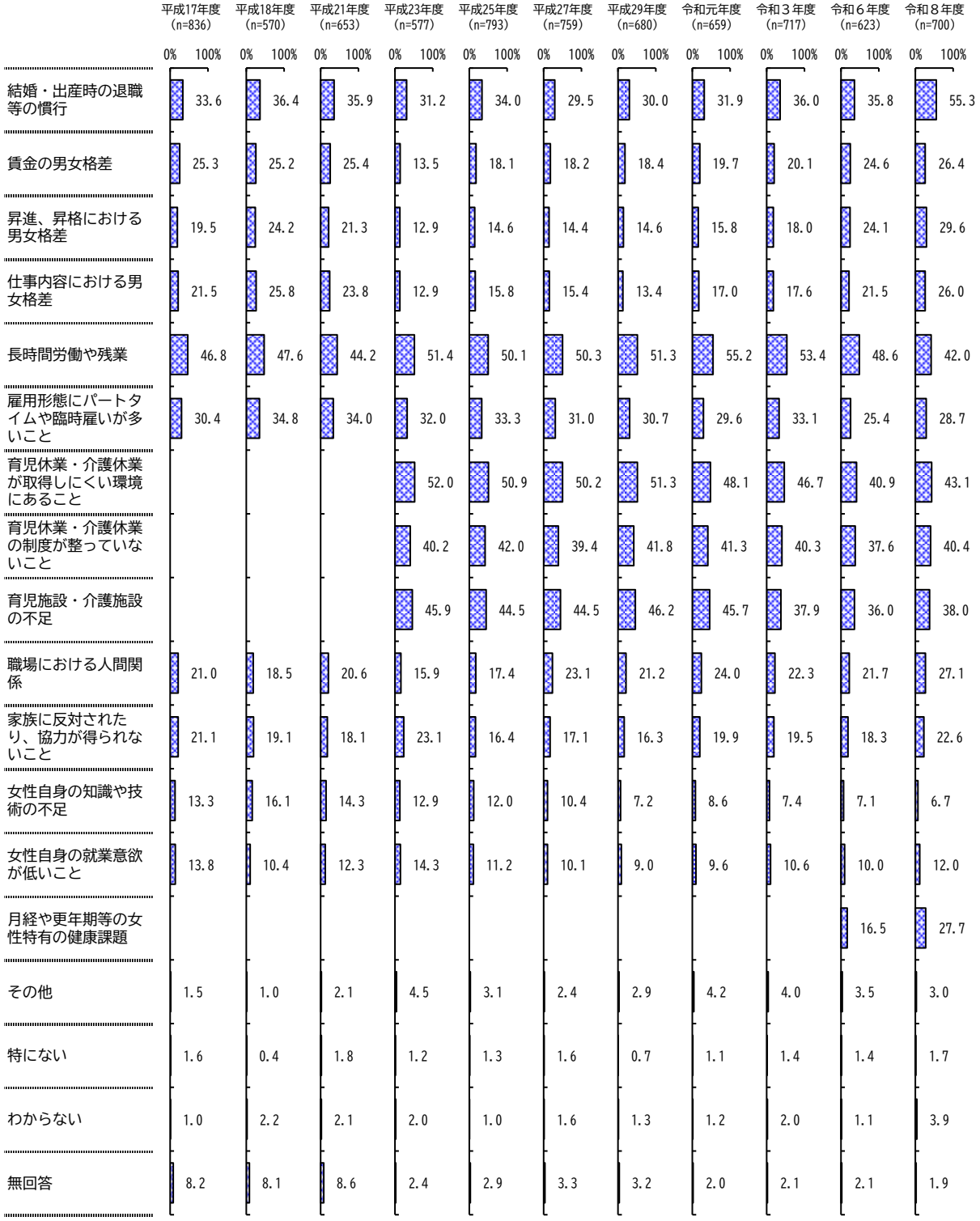
【全体・性別】


全体（n=700）
【性別】
0%
50%
100%
結婚・出産時の退職等の慣行
55.3
50.8
59.3
賃金の男女格差
26.4
21.4
31.0
昇進、昇格における男女格差
29.6
25.7
33.2
仕事内容における男女格差
26.0
26.3
25.9
長時間労働や残業
42.0
34.6
48.5
雇用形態にパートタイムや臨時雇いが多いこと
28.7
25.4
31.8
育児休業・介護休業が取得しにくい環境にあること
43.1
32.7
52.0
育児休業・介護休業の制度が整っていないこと
40.4
30.3
49.3
育児施設・介護施設の不足
38.0
33.0
42.3
職場における人間関係
27.1
19.9
33.4
家族に反対されたり、協力が得られないこと
22.6
16.8
27.5
女性自身の知識や技術の不足
6.7
6.1
7.3
女性自身の就業意欲が低いこと
12.0
11.9
12.1
月経や更年期等の女性特有の健康課題
27.7
18.0
35.8
その他
3.0
3.1
3.0
特にない
1.7
3.4
0.3
わからない
3.9
5.8
2.2
無回答
1.9
2.4
1.3
男性（n=327）
女性（n=371）

【女性の職業の有無別】


0%
20%
40%
60%
80%
100%
結婚・出産時の退職等の慣行
58.8
60.6
賃金の男女格差
32.5
28.3
昇進、昇格における男女格差
34.2
31.5
仕事内容における男女格差
25.1
27.6
長時間労働や残業
50.6
44.9
雇用形態にパートタイムや臨時雇いが多いこと
32.5
30.7
育児休業・介護休業が取得しにくい環境にあること
51.4
53.5
育児休業・介護休業の制度が整っていないこと
49.0
50.4
育児施設・介護施設の不足
44.0
39.4
職場における人間関係
35.4
29.9
家族に反対されたり、協力が得られないこと
30.9
21.3
女性自身の知識や技術の不足
6.6
8.7
女性自身の就業意欲が低いこと
14.4
7.9
月経や更年期等の女性特有の健康課題
33.3
40.2
その他
3.3
2.4
特にない
0.4
0.0
わからない
1.2
3.9
無回答
0.8
2.4
社員・職員（正規・非正規）、自営業、役員（n=243）
専業主婦、学生、無職（n=127）

【経年比較】



※「育児休業・介護休業が取得しにくい環境にあること」、「育児休業・介護休業の制度が整っていないこと」、「育児施設・介護施設の不足」は平成23年度より、「月経や更年期等の女性特有の健康課題」は令和６年度より追加

※「結婚・出産時の退職等の慣行」は令和６年度まで「結婚・出産退職等の慣行」、「昇進、昇格における男女格差」は令和６年度まで「昇進、昇格における男女の格差」、「仕事内容における男女格差」は令和６年度まで「仕事内容における男女の格差」

2. 女性の社会参画を進めるために必要な行政の取組

問18　女性の社会参画を進めるため、行政としてどのような取組が必要だと思いますか。
（あてはまるもの全てに○）

男性、女性ともに「育児・介護に係る施設、サービスの充実」が最も高くなっているが、女性は75.7%、男性は56.3%と差がみられる。

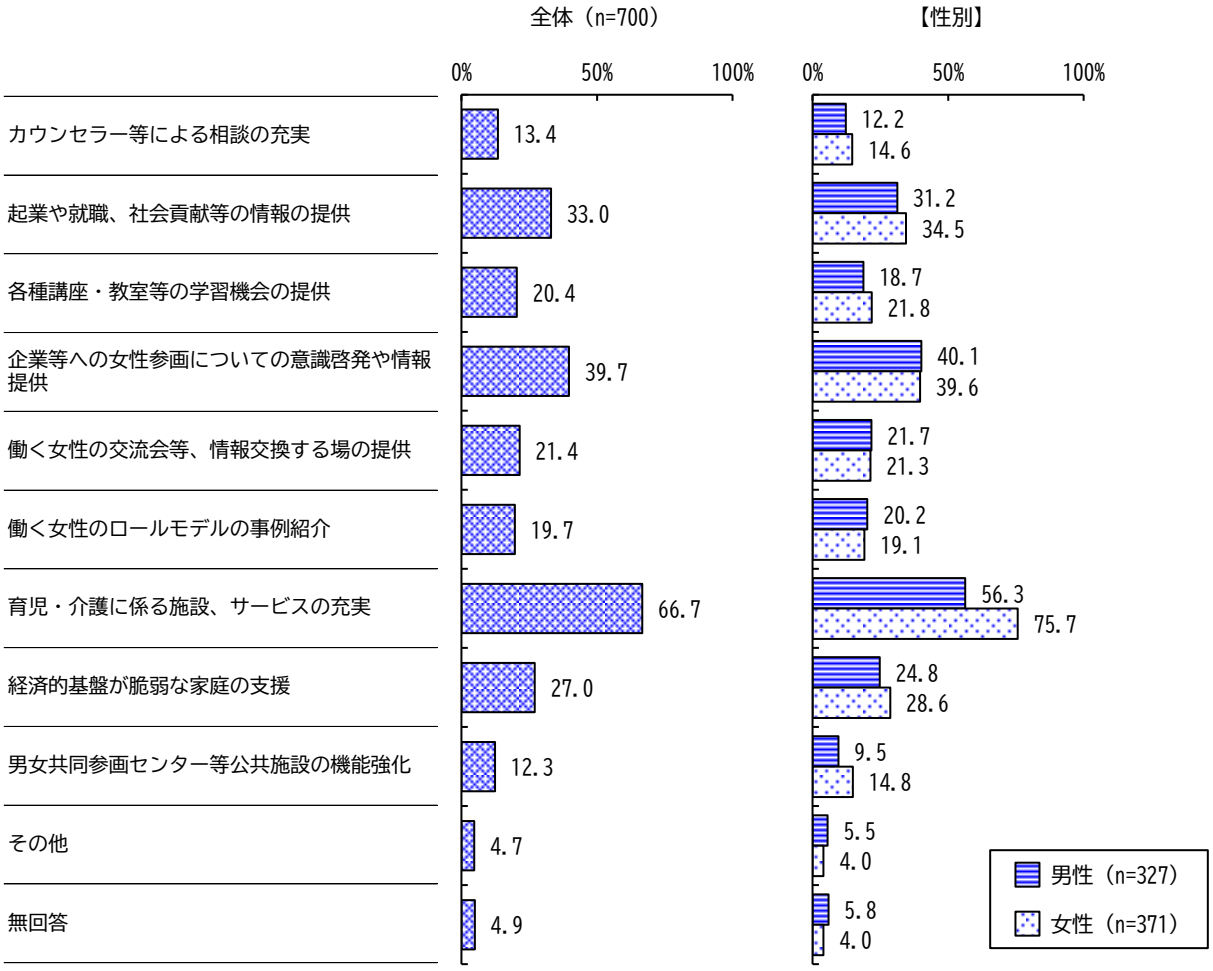
女性の社会参画を進めるため、行政としてどのような取組が必要だと思うかたずねたところ、「育児・介護に係る施設、サービスの充実」が66.7%と最も高く、次に「企業等への女性参画についての意識啓発や情報提供」が39.7%、「起業や就職、社会貢献等の情報の提供」が33.0%となっています。

性別でみると、女性が男性より高い割合となっている項目は「育児・介護に係る施設、サービスの充実」（19.4ポイント差）などとなっており、男女間で差がみられます。

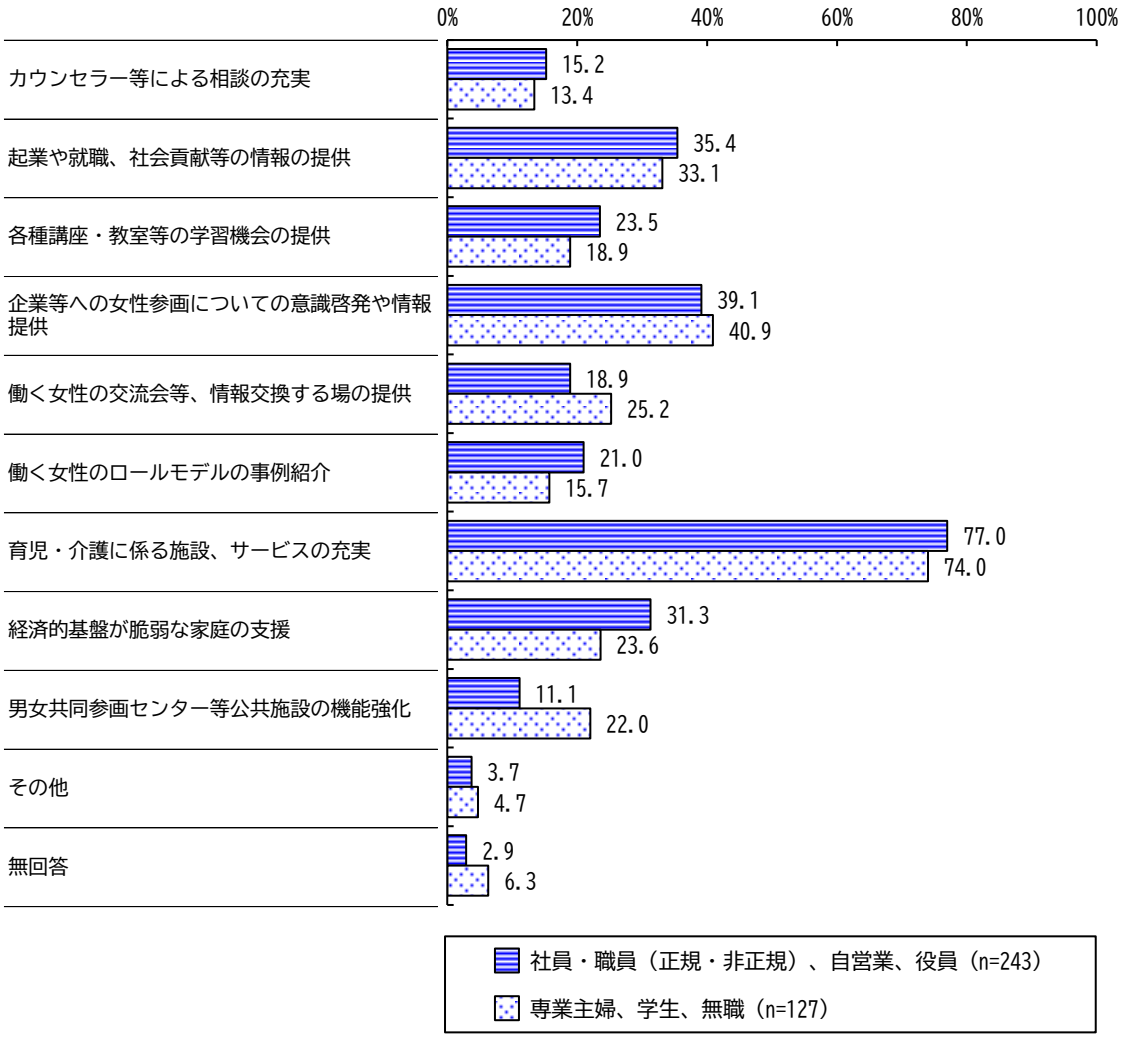
女性の職業の有無別でみると、職業の有無にかかわらず、「育児・介護に係る施設、サービスの充実」が最も高くなっています。

経年比較でみると、「育児・介護に係る施設、サービスの充実」が６割以上と高い割合で推移しています。

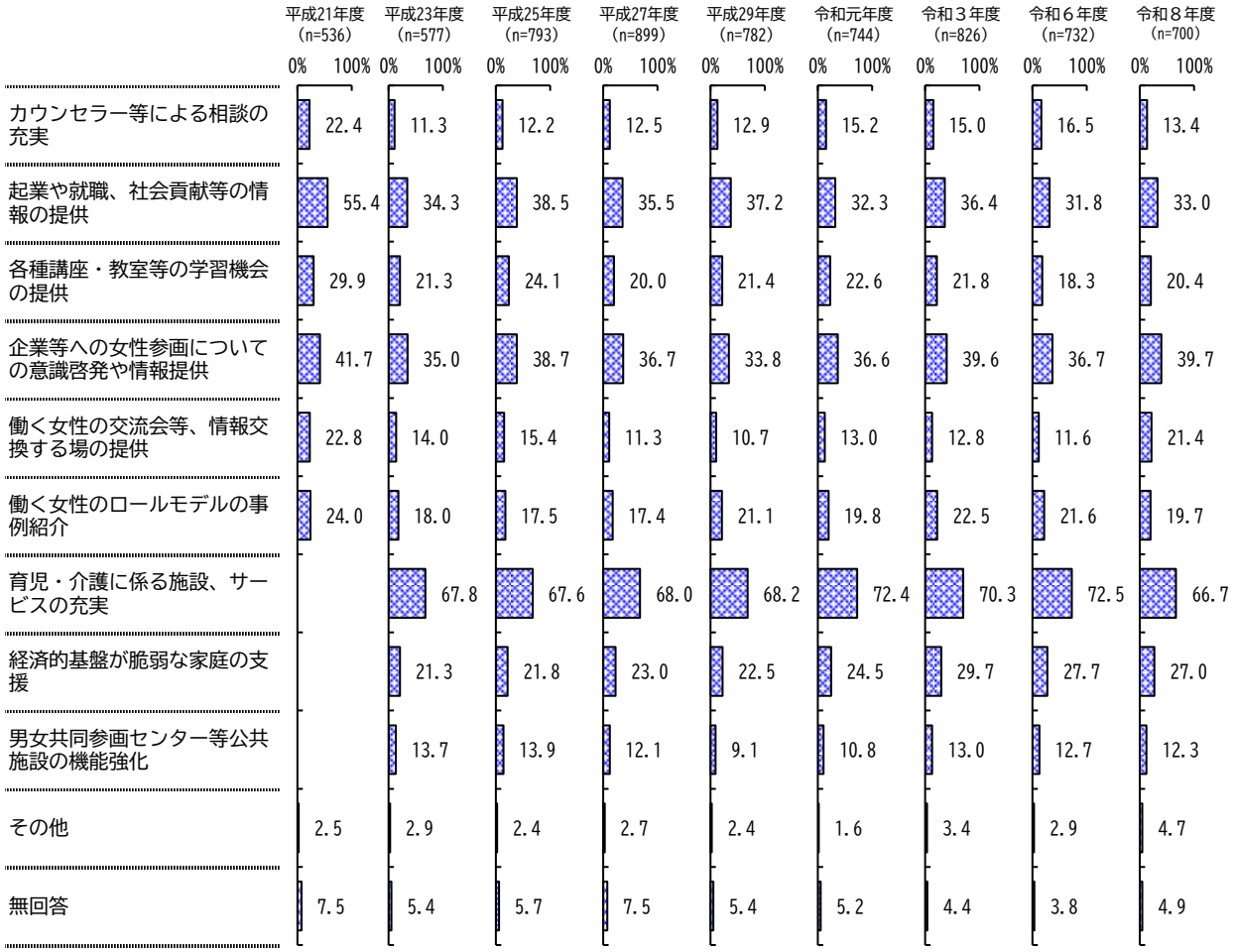
【全体・性別】



【女性の職業の有無別】


0%
20%
40%
60%
80%
100%
カウンセラー等による相談の充実
15.2
13.4
起業や就職、社会貢献等の情報の提供
35.4
33.1
各種講座・教室等の学習機会の提供
23.5
18.9
企業等への女性参画についての意識啓発や情報提供
39.1
40.9
働く女性の交流会等、情報交換する場の提供
18.9
25.2
働く女性のロールモデルの事例紹介
21.0
15.7
育児・介護に係る施設、サービスの充実
77.0
74.0
経済的基盤が脆弱な家庭の支援
31.3
23.6
男女共同参画センター等公共施設の機能強化
11.1
22.0
その他
3.7
4.7
無回答
2.9
6.3
社員・職員（正規・非正規）、自営業、役員（n=243）
専業主婦、学生、無職（n=127）

【経年比較】



※「育児・介護の支援」、「経済的基盤が脆弱な家庭の支援」、「男女共同参画センター等公共施設の機能強化」は平成23年度より追加
※「企業等への女性参画についての意識啓発や情報提供」は令和６年度まで「企業等への女性参画についての意識啓発」、「働く女性の交流会等、情報交換する場の提供」は令和６年度まで「講演会や交流会等の情報交換する場の提供」、「働く女性のロールモデルの事例紹介」は令和６年度まで「参考となる事例の紹介」、「育児・介護に係る施設、サービスの充実」は令和６年度まで「育児・介護の支援」

7　地域社会の一員としての活動について

1. 仕事と家庭生活、個人・地域の生活の希望優先度

問19　生活の中での、「仕事」、「家庭生活」、「個人・地域の生活」（地域活動・学習・趣味・付き合い）の優先度について、あなたの希望に最も近いものはどれですか。（１つに○）

生活の希望優先度は“「仕事」と「家庭生活」の優先”が30.1%、“「家庭生活」の優先”が18.0%。

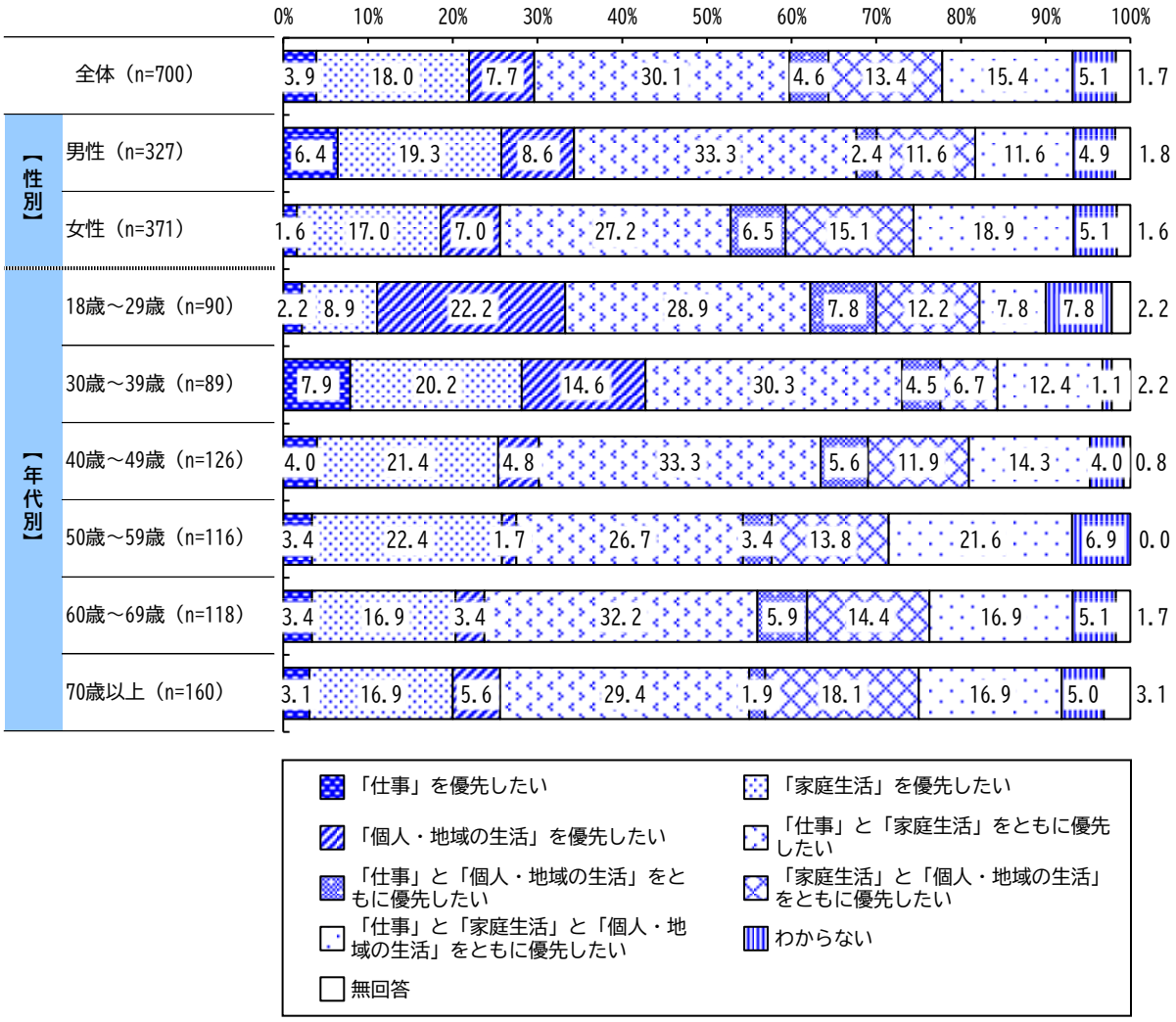
生活の中での「仕事」、「家庭生活」、「個人・地域の生活」の優先度の希望についてたずねたところ、「「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい」が30.1%と最も高く、次に「「家庭生活」を優先したい」が18.0%、「「仕事」と「家庭生活」と「個人・地域の生活」をともに優先したい」が15.4%となっています。

性別でみると、「「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい」は男性が33.3%、女性が27.2%と最も高くなっています。

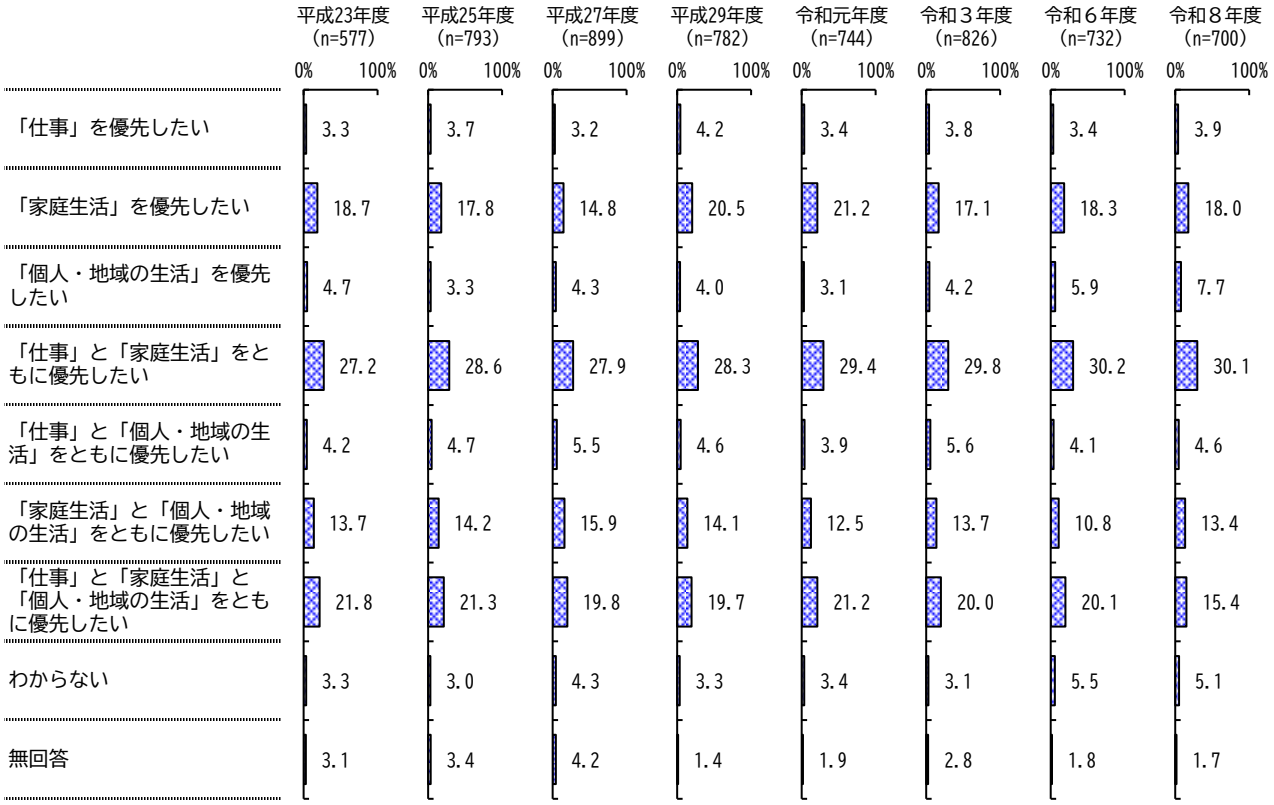
年代別でみると、すべての年代で「「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい」が最も高くなっています。

経年比較でみると、「「仕事」と「家庭生活」と「個人・地域の生活」をともに優先したい」は前回調査より減少し、過去最低となっています。

【全体・性別・年代別】



【経年比較】



※複数の「個人・地域の生活」は令和６年度まで「地域・個人の生活」

２. 仕事と家庭生活、個人・地域の生活の優先度の現実

問19 - ２　あなたの現実（現状）に最も近いものはどれですか。（１つに○）

男性は“「仕事」を優先”が30.0%、女性は“「仕事」と「家庭生活」をともに優先”が25.1%。

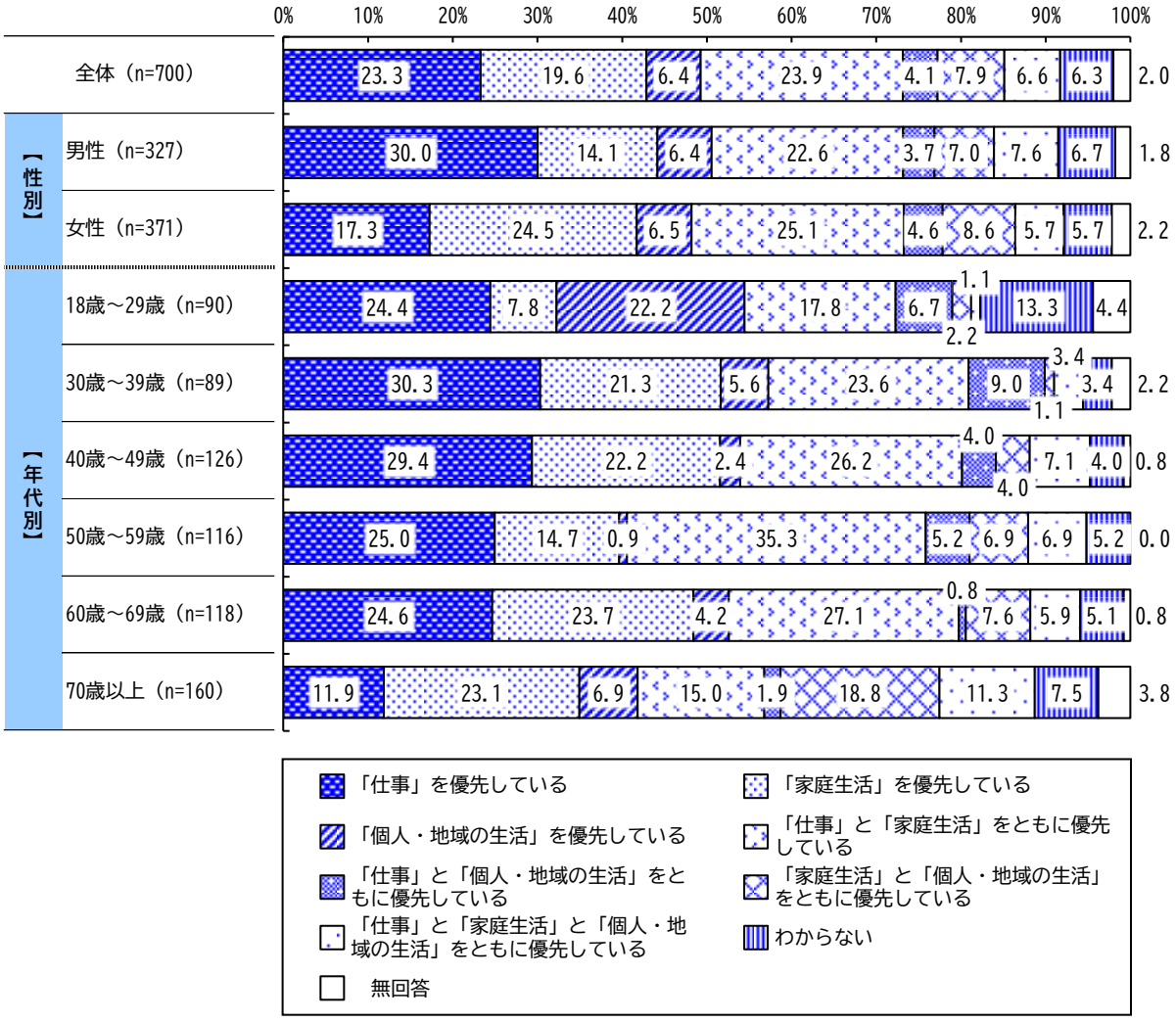
生活の中での「仕事」、「家庭生活」、「個人・地域の生活」の優先度の現実についてたずねたところ、「「仕事」と「家庭生活」をともに優先している」が23.9%と最も高く、次に「「仕事」を優先している」が23.3%、「「家庭生活」を優先している」が19.6%となっています。

性別でみると、男性は「「仕事」を優先している」が30.0%で最も高く、次に「「仕事」と「家庭生活」をともに優先している」が22.6%、女性は「「仕事」と「家庭生活」をともに優先している」が25.1%で最も高く、次に「「家庭生活」を優先している」が24.5%となっています。また、「「仕事」を優先している」は男性が女性より高い割合となり（12.7ポイント差）、「「家庭生活」を優先している」は女性が男性より高い割合（10.4ポイント差）となっています。

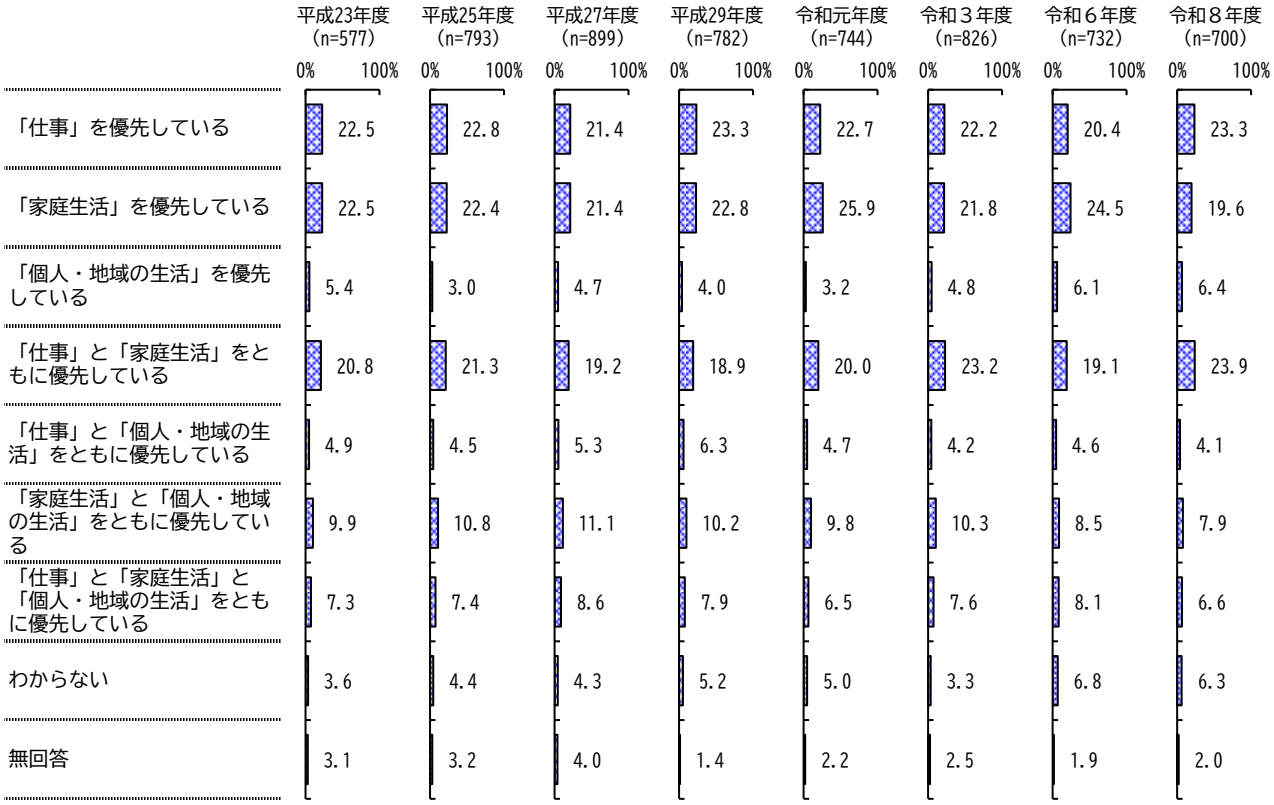
年代別でみると、40歳～49歳以下では「「仕事」を優先している」、50歳～59歳、60歳～69歳では「「仕事」と「家庭生活」をともに優先している」、70歳以上では「「家庭生活」を優先している」が最も高くなっています。

経年比較でみると、「「家庭生活」を優先している」が減少し、今年度調査で過去最低となっています。

【全体・性別・年代別】



【経年比較】



※複数の「個人・地域の生活」は令和６年度まで「地域・個人の生活」

８　実践的な取組の推進について

１．「静岡県男女共同参画センターあざれあ」の利用について

問20　「静岡県男女共同参画センターあざれあ」を利用したことがありますか。（１つに○）

「静岡県男女共同参画センターあざれあ」については「知らない」が59.0%。

「静岡県男女共同参画センターあざれあ」の利用についてたずねたところ、「利用したことがある」が11.4%、「知っているが、利用したことはない」が27.6%、「知らない」が59.0%となっています。

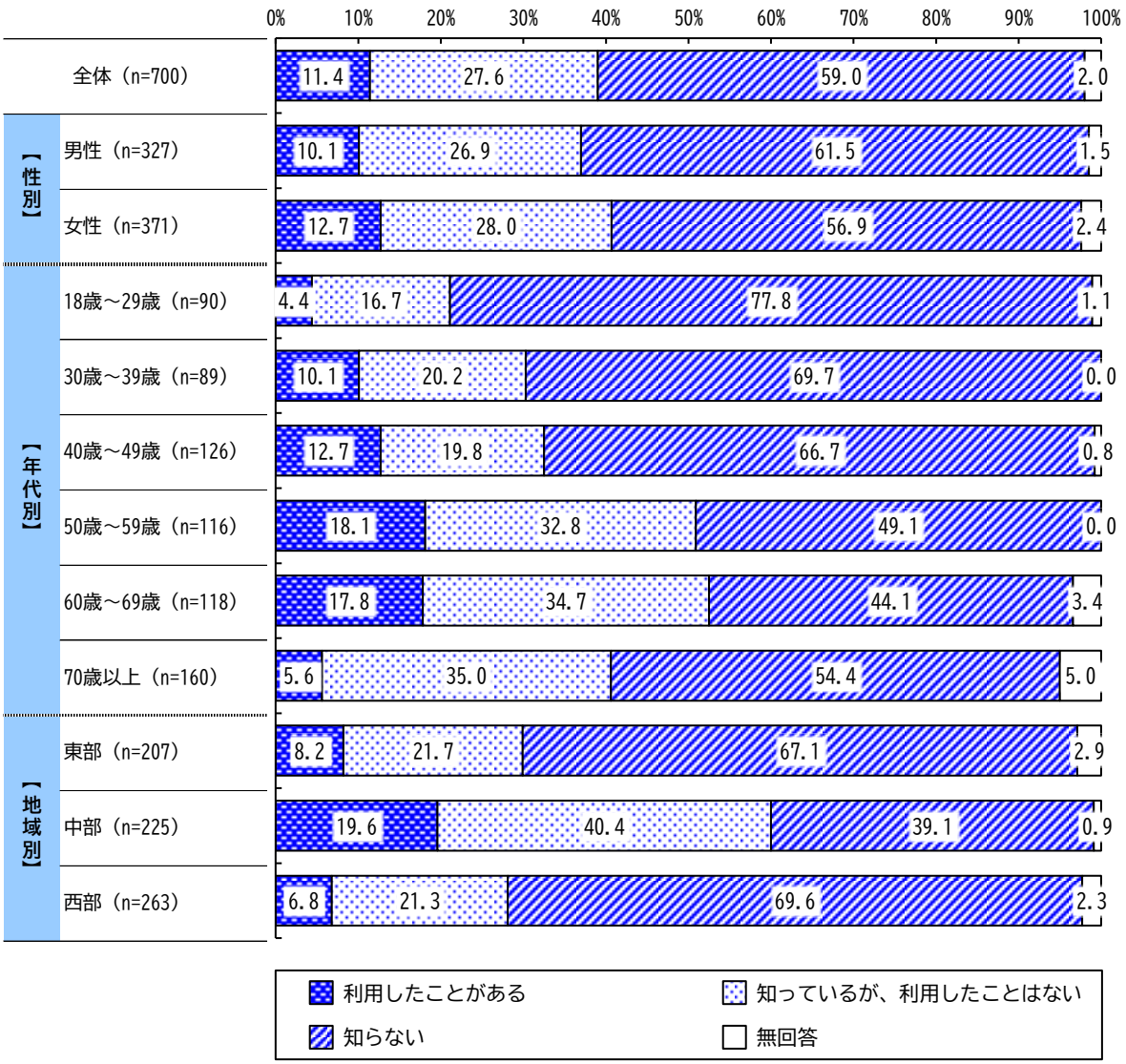
性別でみると、『知っている』（「利用したことがある」＋「知っているが、利用したことはない」）が、男性は37.0%、女性は40.7%となっています。

年代別でみると、「知らない」が18歳～29歳で77.8%と他の年代に比べて高くなっています。

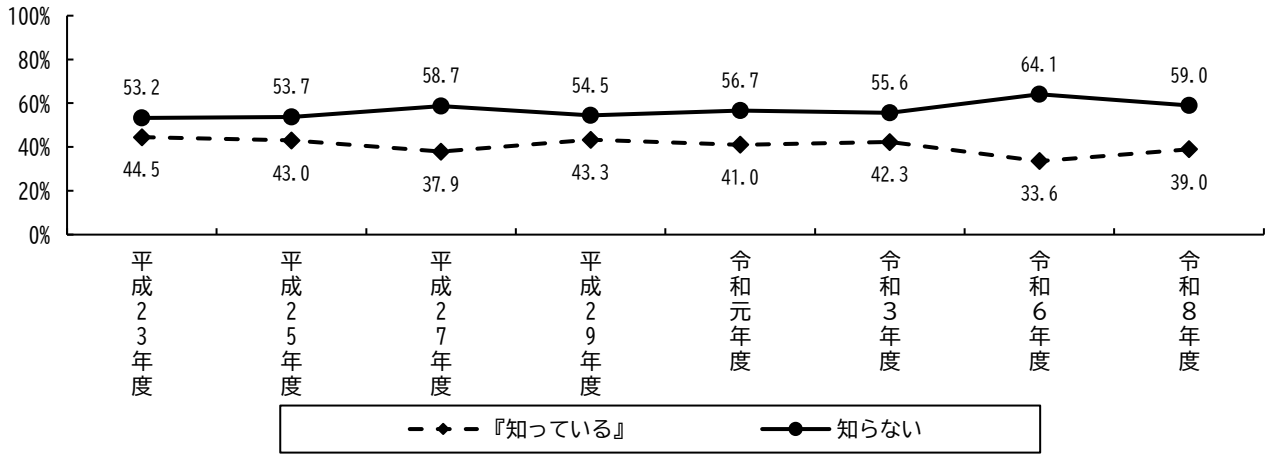
地域別でみると、『知っている』が所在地の中部では60.0%となる一方、東部、西部では「知らない」の割合がそれぞれ67.1%、69.6%となっています。

経年比較でみると、『知っている』が前回調査より増加しています。「知らない」は前回調査よりやや減少しています。

【全体・性別・年代別・地域別】



【経年比較】



※無回答などを省略していますので、合計しても100%にならないことがあります。
※『知っている』（「利用したことがある」＋「知っているが、利用したことはない」）

	調査数	利用したことがある	知っているが、利用したことはない	知らない	無回答
平成23年度	424	12.3%	32.2%	53.2%	2.3%
平成25年度	571	13.7%	29.3%	53.7%	3.3%
平成27年度	899	11.2%	26.7%	58.7%	3.3%
平成29年度	782	15.6%	27.7%	54.5%	2.2%
令和元年度	744	12.6%	28.4%	56.7%	2.3%
令和３年度	826	14.0%	28.3%	55.6%	2.1%
令和６年度	732	10.2%	23.4%	64.1%	2.3%
令和８年度	700	11.4%	27.6%	59.0%	2.0%

２．「静岡県男女共同参画センターあざれあ」に期待している役割

問20 - ２　「静岡県男女共同参画センターあざれあ」について、あなたは、この施設にどのような役割を期待していますか。（あてはまるもの全てに○）

「静岡県男女共同参画センターあざれあ」に期待している役割は
「社会で働く上で役立つ講座の開催(起業、再就職、資格取得等)」が35.7%。

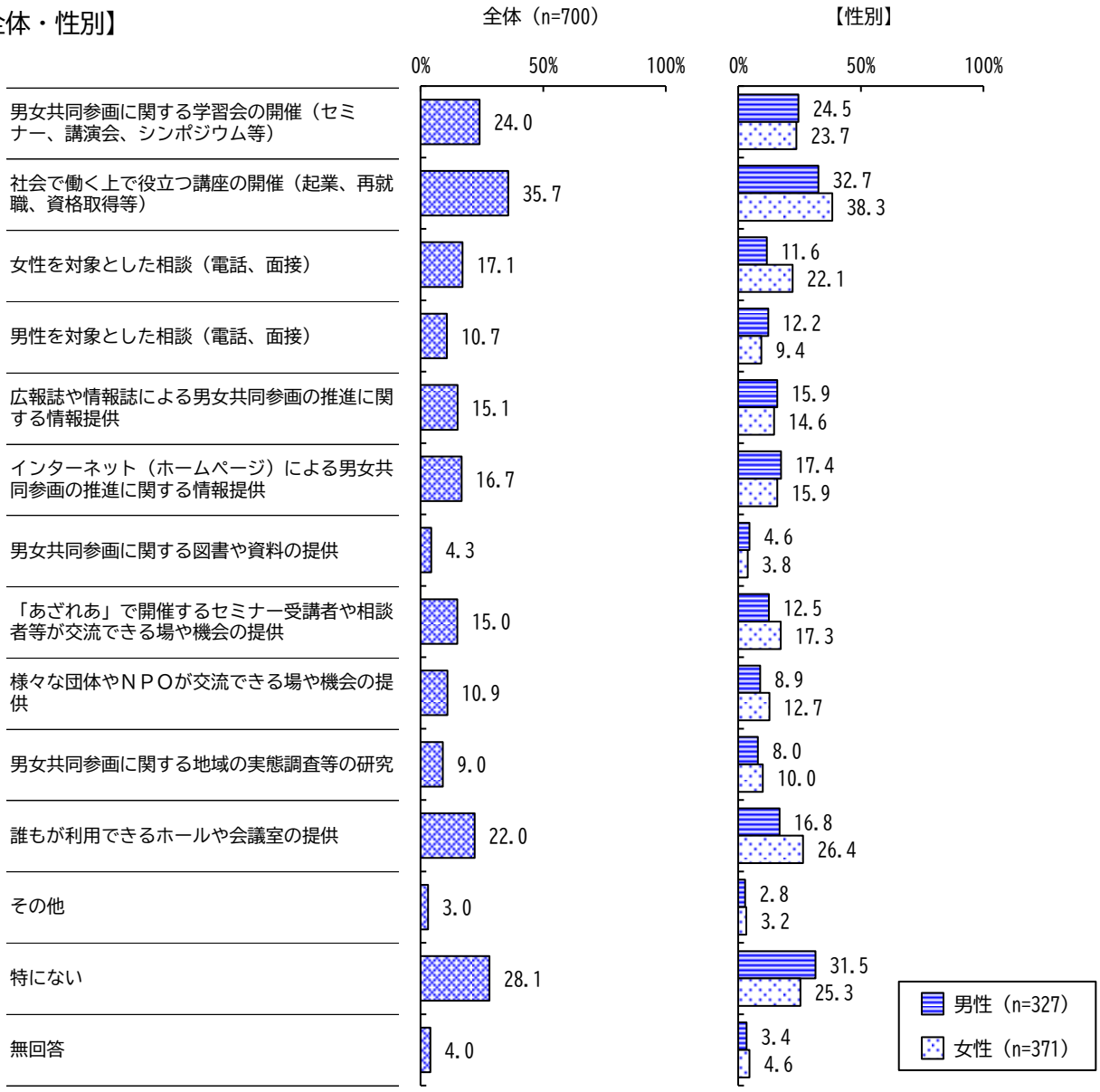
「静岡県男女共同参画センターあざれあ」に期待している役割についてたずねたところ、「社会で働く上で役立つ講座の開催（起業、再就職、資格取得等)」が35.7%と最も高く、次に「男女共同参画に関する学習会の開催（セミナー、講演会、シンポジウム等)」が24.0%となっています。

性別でみると、男性、女性ともに「社会で働く上で役立つ講座の開催（起業、再就職、資格取得等)」がそれぞれ32.7%、38.3%で最も高くなっています。

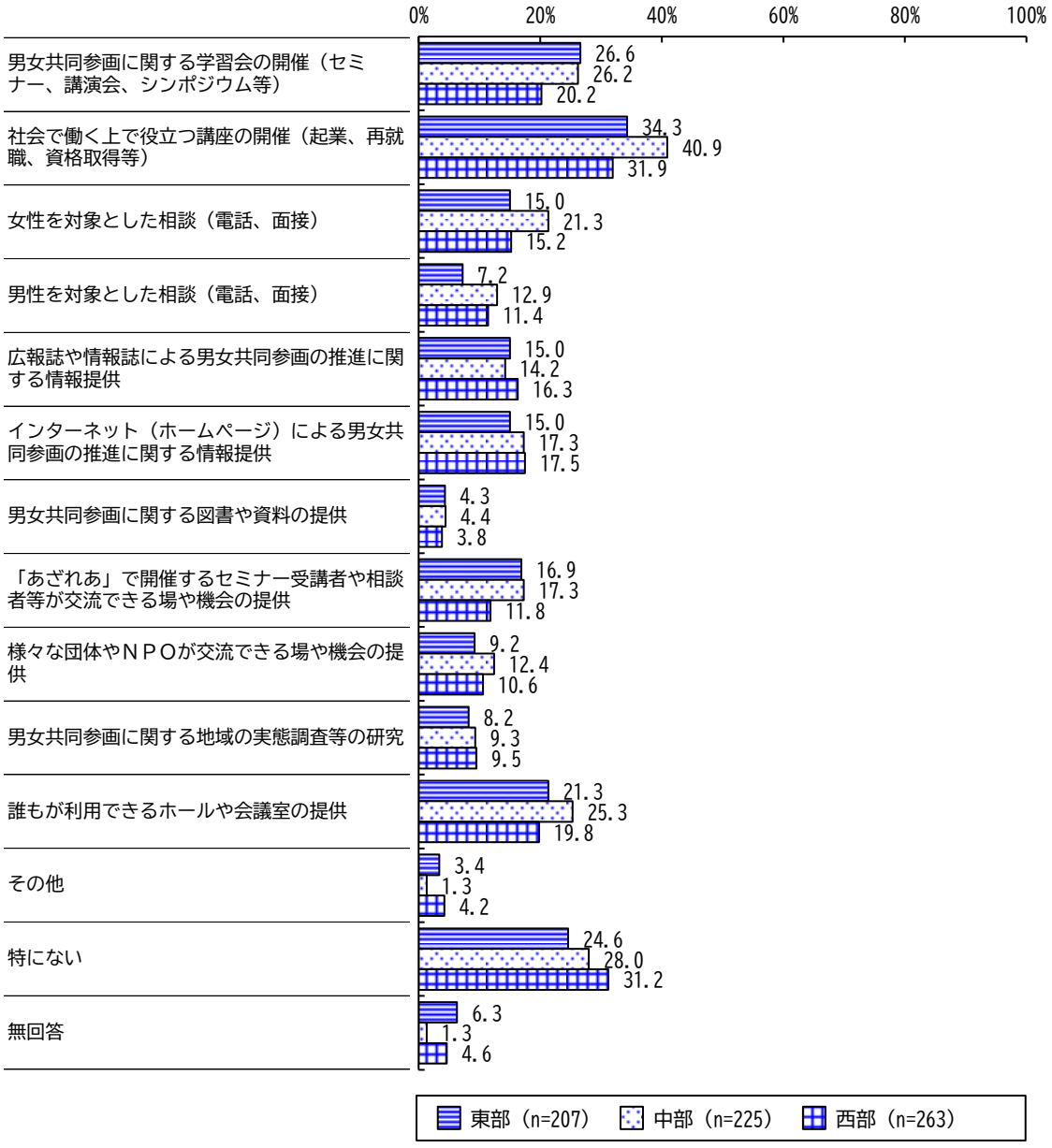
地域別でみると、すべての地域で「社会で働く上で役立つ講座の開催（起業、再就職、資格取得等)」が最も高く、東部で34.3%、中部で40.9%、西部で31.9%となっています。

経年比較でみると、「社会で働く上で役立つ講座の開催（起業、再就職、資格取得等)」の割合が各年最も高い割合で推移しています。

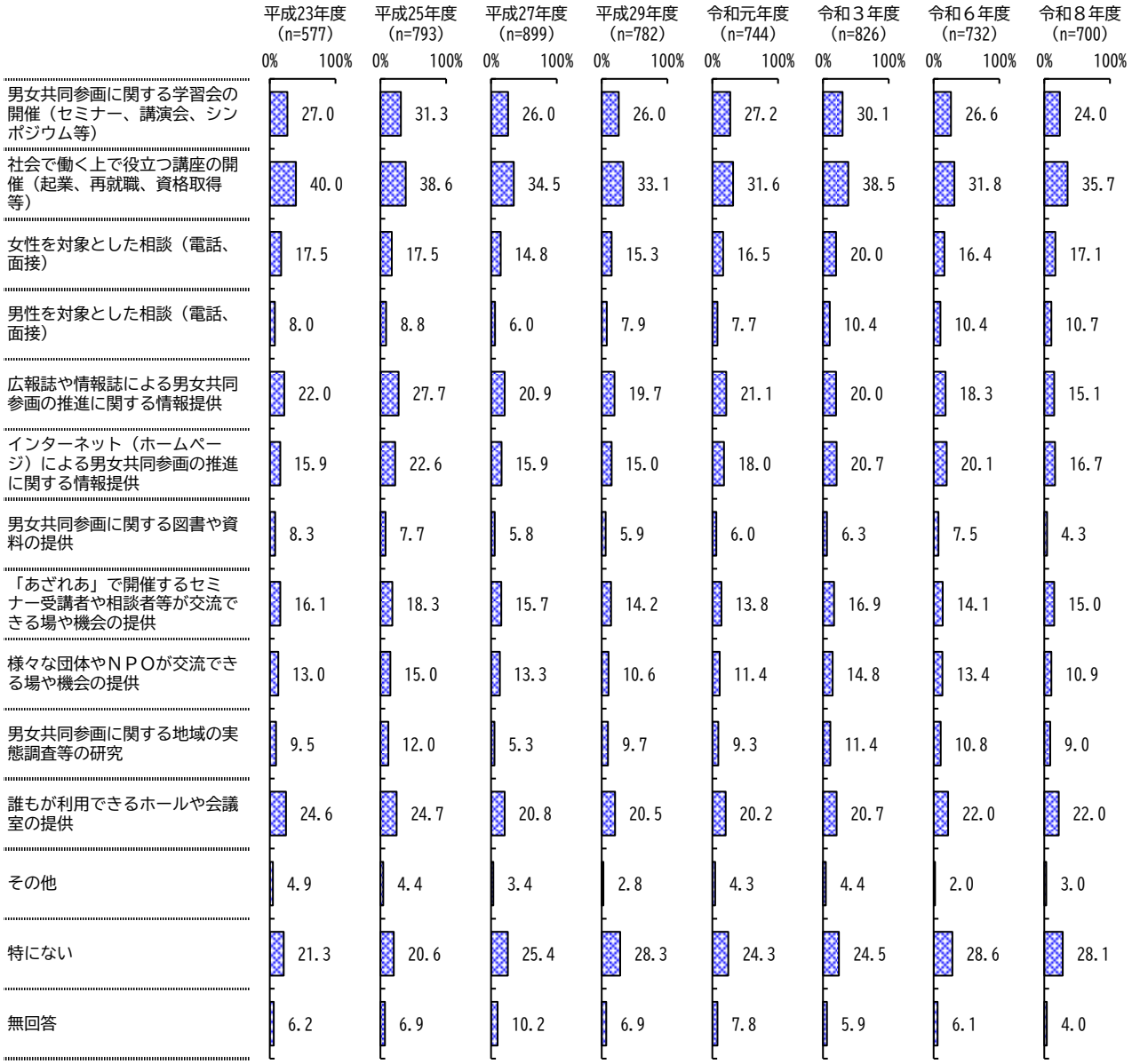
【全体・性別】



【地域別】


0%
20%
40%
60%
80%
100%
男女共同参画に関する学習会の開催（セミナー、講演会、シンポジウム等）
26.6
26.2
20.2
社会で働く上で役立つ講座の開催（起業、再就職、資格取得等）
34.3
40.9
31.9
女性を対象とした相談（電話、面接）
15.0
21.3
15.2
男性を対象とした相談（電話、面接）
7.2
12.9
11.4
広報誌や情報誌による男女共同参画の推進に関する情報提供
15.0
14.2
16.3
インターネット（ホームページ）による男女共同参画の推進に関する情報提供
15.0
17.3
17.5
男女共同参画に関する図書や資料の提供
4.3
4.4
3.8
「あざれあ」で開催するセミナー受講者や相談者等が交流できる場や機会の提供
16.9
17.3
11.8
様々な団体やＮＰＯが交流できる場や機会の提供
9.2
12.4
10.6
男女共同参画に関する地域の実態調査等の研究
8.2
9.3
9.5
誰もが利用できるホールや会議室の提供
21.3
25.3
19.8
その他
3.4
1.3
4.2
特にない
24.6
28.0
31.2
無回答
6.3
1.3
4.6
東部（n=207）
中部（n=225）
西部（n=263）

【経年比較】


平成23年度（n=577）
平成25年度（n=793）
平成27年度（n=899）
平成29年度（n=782）
令和元年度（n=744）
令和３年度（n=826）
令和６年度（n=732）
令和８年度（n=700）
0%
100%
男女共同参画に関する学習会の開催（セミナー、講演会、シンポジウム等）
27.0 31.3 26.0 26.0 27.2 30.1 26.6 24.0
社会で働く上で役立つ講座の開催（起業、再就職、資格取得等）
40.0 38.6 34.5 33.1 31.6 38.5 31.8 35.7
女性を対象とした相談（電話、面接）
17.5 17.5 14.8 15.3 16.5 20.0 16.4 17.1
男性を対象とした相談（電話、面接）
8.0 8.8 6.0 7.9 7.7 10.4 10.4 10.7
広報誌や情報誌による男女共同参画の推進に関する情報提供
22.0 27.7 20.9 19.7 21.1 20.0 18.3 15.1
インターネット（ホームページ）による男女共同参画の推進に関する情報提供
15.9 22.6 15.9 15.0 18.0 20.7 20.1 16.7
男女共同参画に関する図書や資料の提供
8.3 7.7 5.8 5.9 6.0 6.3 7.5 4.3
「あざれあ」で開催するセミナー受講者や相談者等が交流できる場や機会の提供
16.1 18.3 15.7 14.2 13.8 16.9 14.1 15.0
様々な団体やＮＰＯが交流できる場や機会の提供
13.0 15.0 13.3 10.6 11.4 14.8 13.4 10.9
男女共同参画に関する地域の実態調査等の研究
9.5 12.0 5.3 9.7 9.3 11.4 10.8 9.0
誰もが利用できるホールや会議室の提供
24.6 24.7 20.8 20.5 20.2 20.7 22.0 22.0
その他
4.9 4.4 3.4 2.8 4.3 4.4 2.0 3.0
特にない
21.3 20.6 25.4 28.3 24.3 24.5 28.6 28.1
無回答
6.2 6.9 10.2 6.9 7.8 5.9 6.1 4.0

9　その他（男女共同参画関係・性の多様性等）について

1．男女共同参画関係・性の多様性等に関する知識

問21　あなたは次のことがらを知っていますか。（それぞれ１つに○）

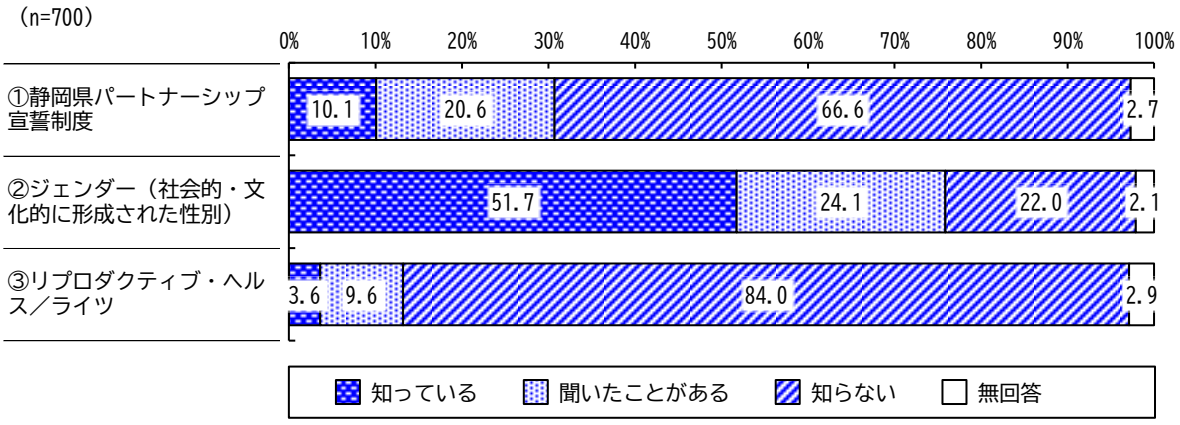
【静岡県パートナーシップ宣誓制度】は『知っている』が30.7%、
【ジェンダー（社会的・文化的に形成された性別）】は『知っている』が75.8%、
【リプロダクティブ・ヘルス／ライツ】は「知らない」が84.0%。

【①静岡県パートナーシップ宣誓制度】については、「知っている」が10.1%、「聞いたことがある」が20.6%、「知らない」が66.6%となっています。「知っている」と「聞いたことがある」を合わせた『知っている』が30.7%となっています。

【②ジェンダー（社会的・文化的に形成された性別）】については、「知っている」が51.7%、「聞いたことがある」が24.1%、「知らない」が22.0%となっています。「知っている」と「聞いたことがある」を合わせた『知っている』が75.8%となっています。

【③リプロダクティブ・ヘルス／ライツ】については、「知っている」が3.6%、「聞いたことがある」が9.6%、「知らない」が84.0%となっています。「知っている」と「聞いたことがある」を合わせた『知っている』が13.2%となっています。

【全体】



①静岡県パートナーシップ宣誓制度

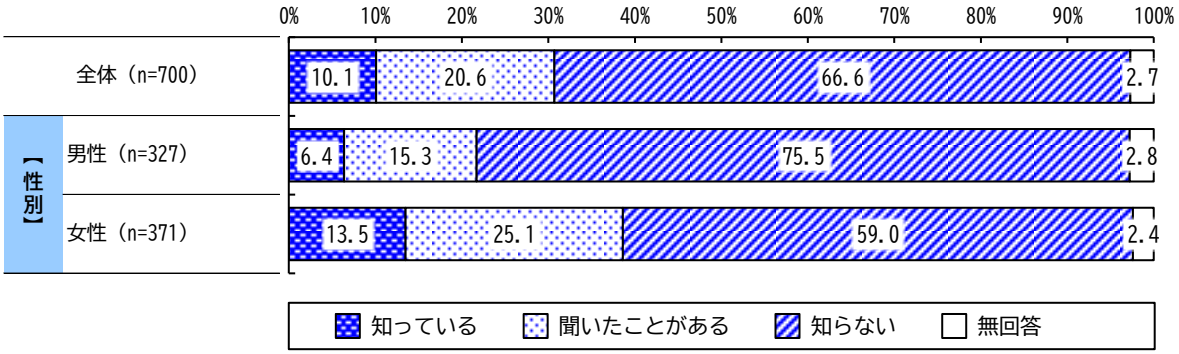
＜静岡県パートナーシップ宣誓制度＞は「知らない」が男性は75.5%、女性は59.0%。

【①静岡県パートナーシップ宣誓制度】について性別でみると、男性、女性ともに「知らない」は男性が75.5%、女性が59.0%となっています。

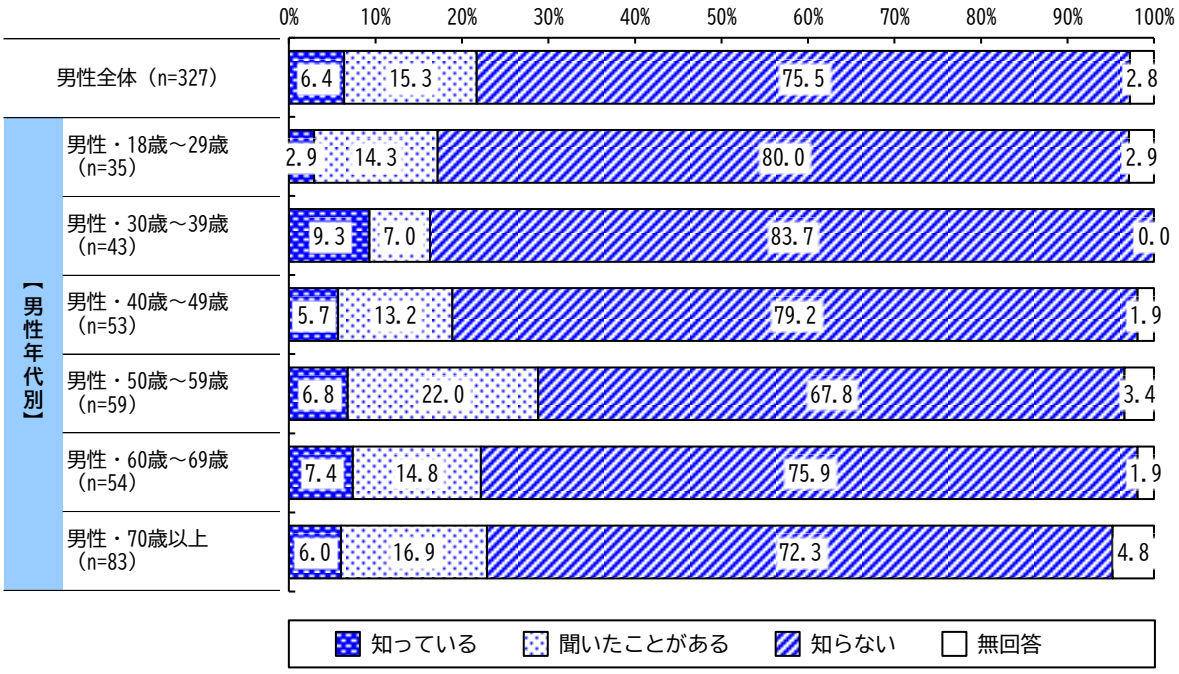
性・年代別でみると、女性の18歳～29歳、30歳～39歳、60歳～69歳で『知っている』（「知っている」＋「聞いたことがある」）が４割以上となっています。

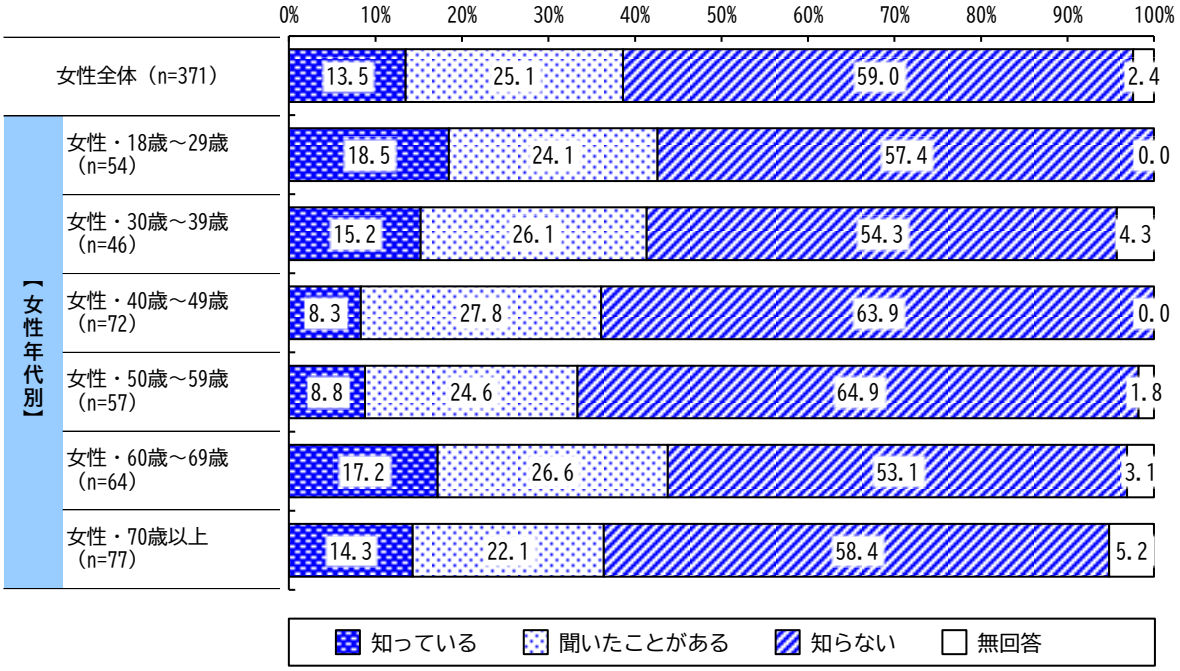
経年比較でみると、前回調査より「知らない」の割合が増加しています。

【全体・性別】

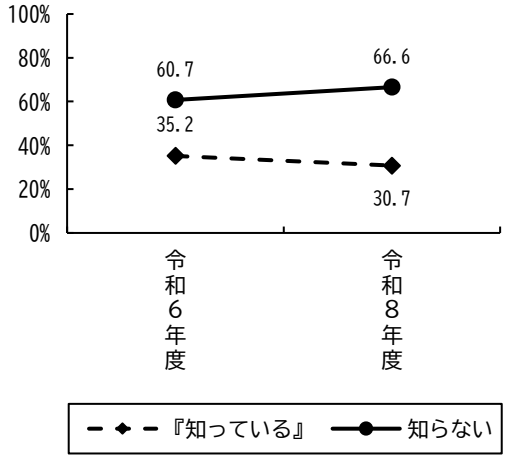


【性・年代別】





【経年比較】



	調査数	知っている	聞いたことがある	知らない	無回答
令和６年度	732	14.3%	20.9%	60.7%	4.1%
令和８年度	700	10.1%	20.6%	66.6%	2.7%

※無回答などを省略していますので、合計しても100%にならないことがあります。

※『知っている』（「知っている」＋「聞いたことがある」）

②ジェンダー（社会的・文化的に形成された性別）

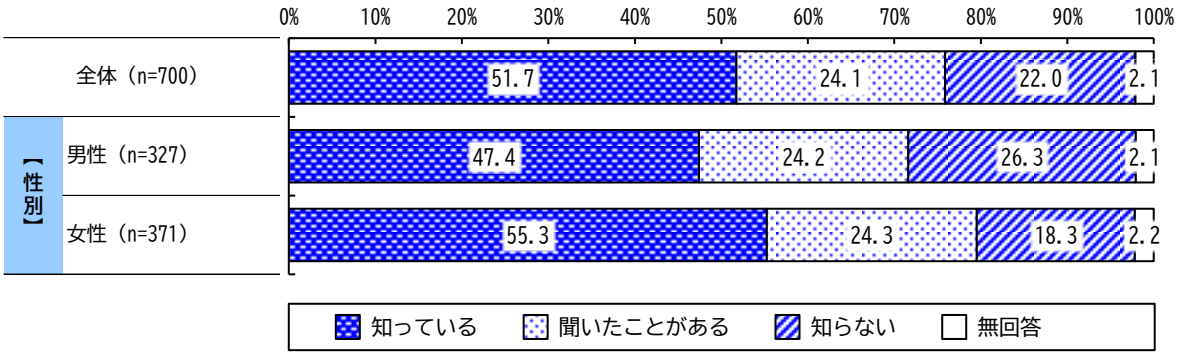
＜ジェンダー(社会的･文化的に形成された性別)＞は男性、女性ともに『知っている』が7割以上。

【②ジェンダー（社会的・文化的に形成された性別）】について性別でみると、男性、女性ともに『知っている』(「知っている」＋「聞いたことがある」）が７割以上となっています。

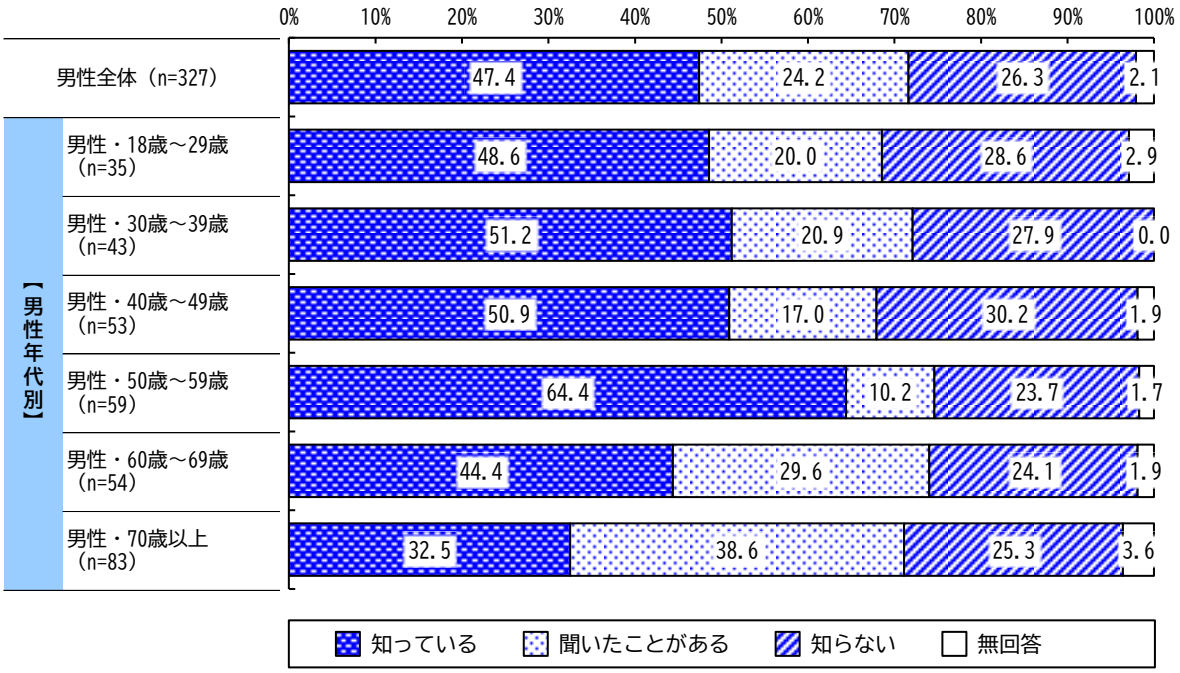
性・年代別でみると、「知っている」の割合が、女性の18歳～29歳で他の年代より高くなっています。

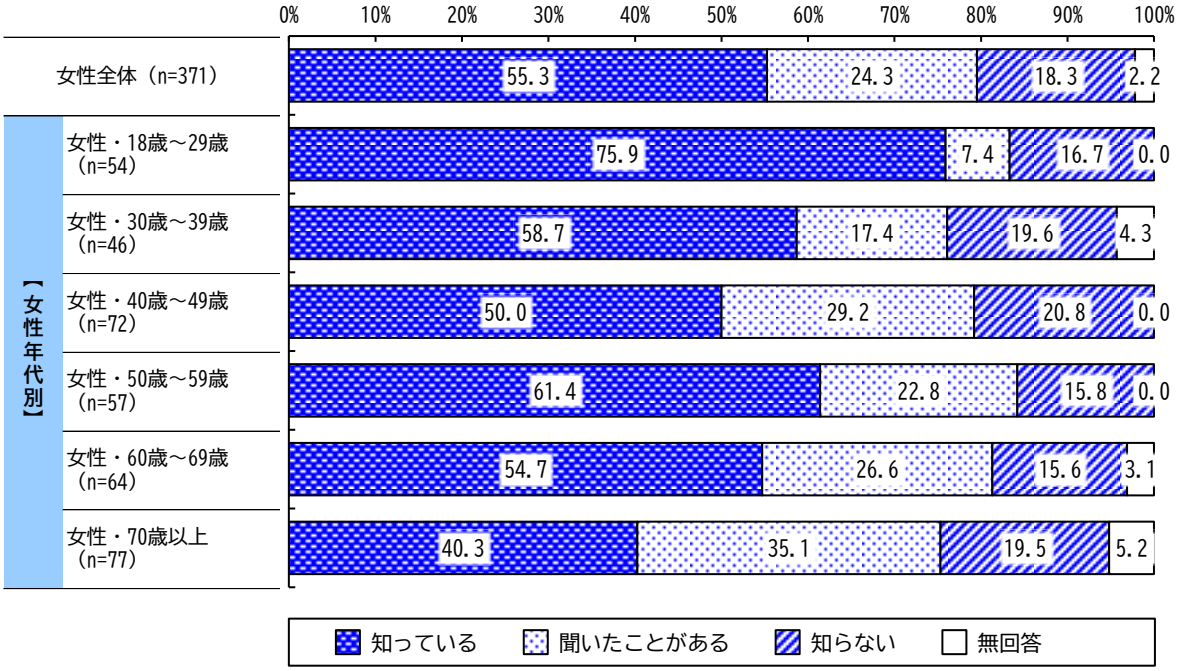
経年比較でみると、前回調査より「知らない」の割合が高くなっています。

【全体・性別】

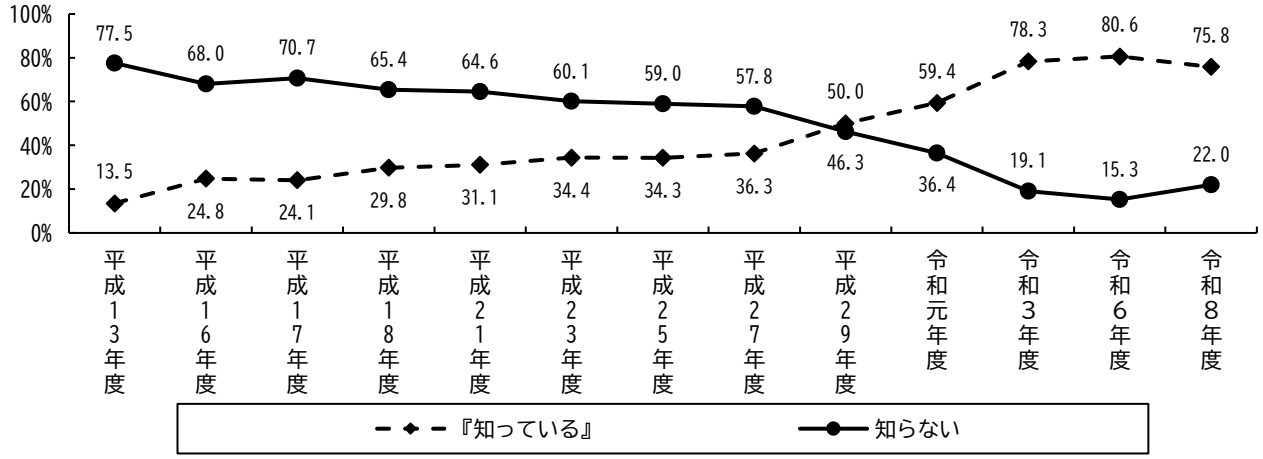


【性・年代別】





【経年比較】



※無回答などを省略していますので、合計しても100%にならないことがあります。
※『知っている』（「知っている」＋「聞いたことがある」）

	調査数	知っている	聞いたことがある	知らない	無回答
平成13年度	1,133	6.4%	7.1%	77.5%	9.0%
平成16年度	800	11.8%	13.0%	68.0%	7.3%
平成17年度	836	13.0%	11.1%	70.7%	5.1%
平成18年度	570	11.2%	18.6%	65.4%	4.7%
平成21年度	653	12.3%	18.8%	64.6%	4.3%
平成23年度	577	12.7%	21.7%	60.1%	5.5%
平成25年度	793	16.8%	17.5%	59.0%	6.7%

	調査数	知っている	聞いたことがある	知らない	無回答
平成27年度	899	16.7%	19.6%	57.8%	5.9%
平成29年度	782	26.5%	23.5%	46.3%	3.7%
令和元年度	744	34.7%	24.7%	36.4%	4.2%
令和３年度	826	46.2%	32.1%	19.1%	2.5%
令和６年度	732	50.1%	30.5%	15.3%	4.1%
令和８年度	700	51.7%	24.1%	22.0%	2.1%

③リプロダクティブ・ヘルス／ライツ

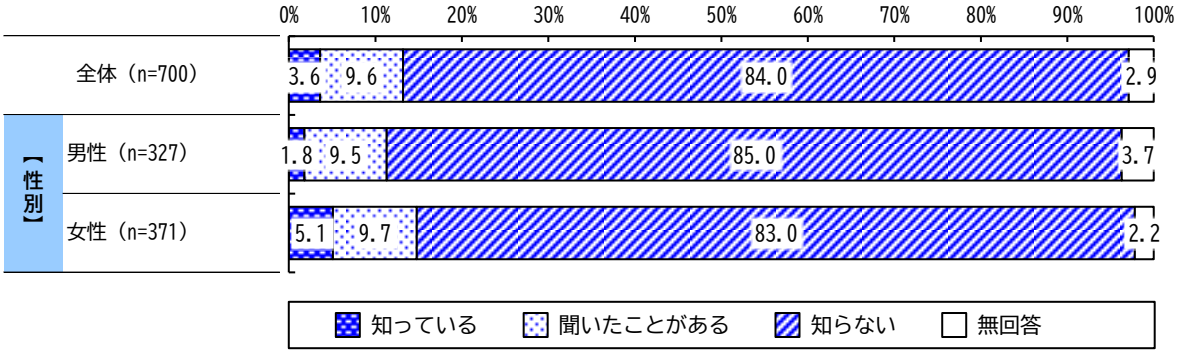
＜リプロダクティブ･ヘルス／ライツ＞は男性、女性ともに『知っている』が2割未満。

【③リプロダクティブ・ヘルス／ライツ】について性別でみると、男性、女性ともに『知っている』（「知っている」＋「聞いたことがある」）が２割未満となっています。

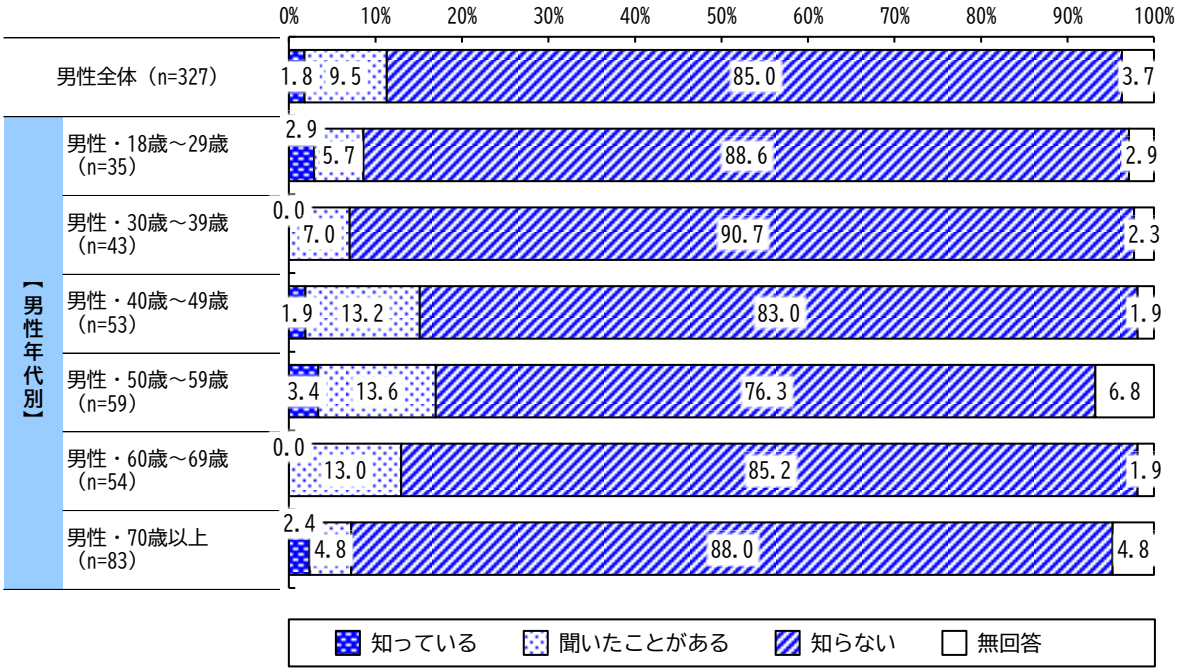
性・年代別でみると、女性の18歳～29歳で『知っている』が20.4％で他の年代に比べて高くなっています。

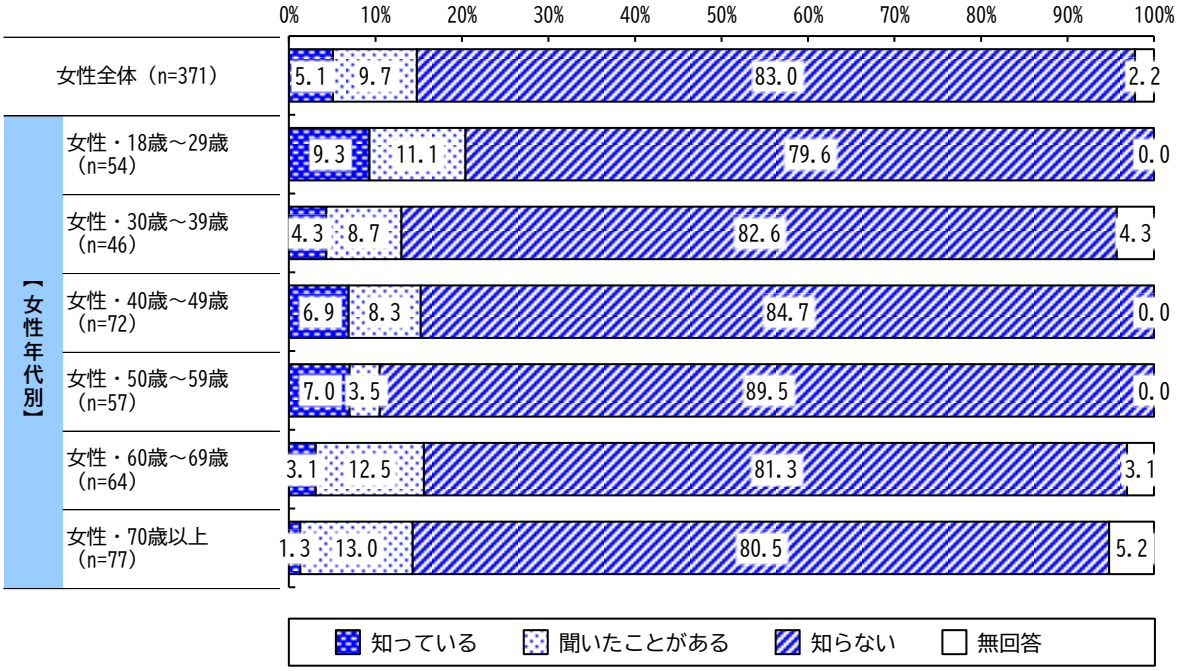
経年比較でみると、前回調査から大きな変化はありません。「知らない」が８割以上と高い割合で推移しています。

【全体・性別】

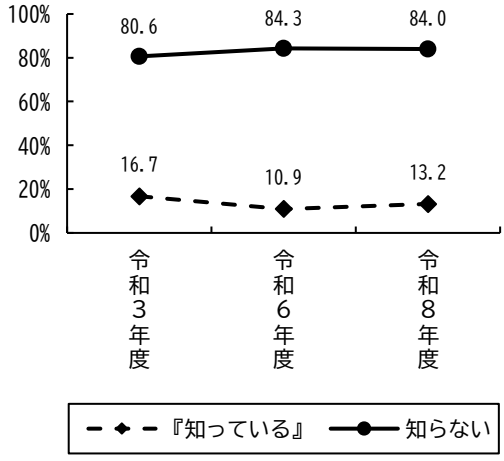


【性・年代別】





【経年比較】



	調査数	知っている	聞いたことがある	知らない	無回答
令和３年度	826	5.4%	11.3%	80.6%	2.7%
令和６年度	732	3.3%	7.7%	84.3%	4.8%
令和８年度	700	3.6%	9.6%	84.0%	2.9%

※無回答などを省略していますので、合計しても100%にならないことがあります。

※『知っている』（「知っている」＋「聞いたことがある」）

2. 性的マイノリティの方が身近にいるか

問22　あなたの周りに、性的マイノリティ（LGBTなどの性的少数者）の方はいますか。

性的マイノリティの方は身近に「いると思う」が23.9%。

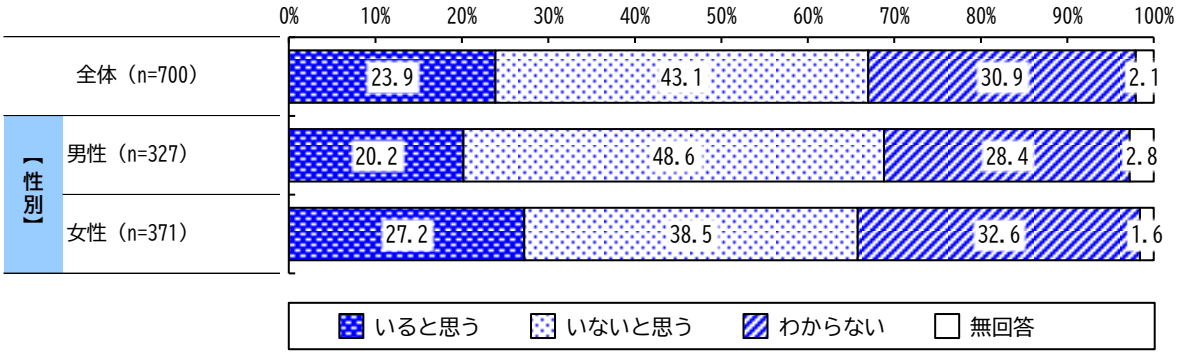
周りに性的マイノリティ（LGBTなどの性的少数者）の方がいるかたずねたところ、「いると思う」が23.9%、「いないと思う」が43.1%、「わからない」が30.9%となっています。

性別でみると、「いると思う」は男性が20.2%、女性が27.2%となっています。

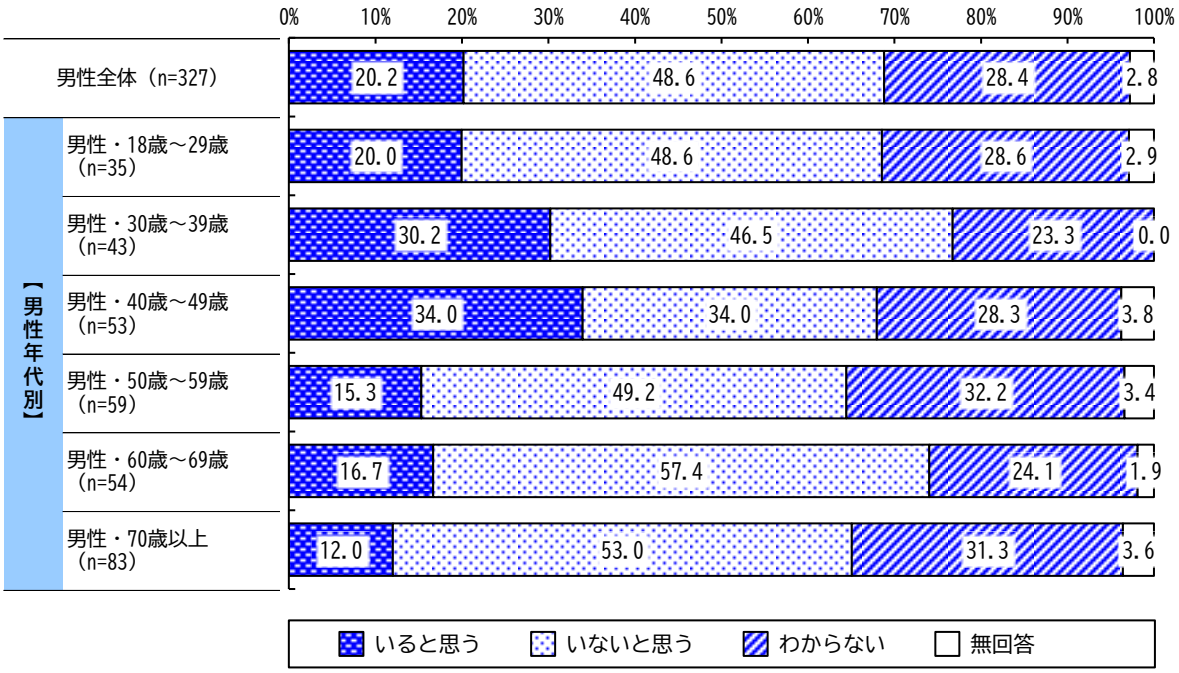
性・年代別でみると、女性の18歳～29歳、30歳～39歳で「いると思う」が他の年代に比べて高くなっています。男性の60歳～69歳、70歳以上で「いないと思う」が５割以上となっています。

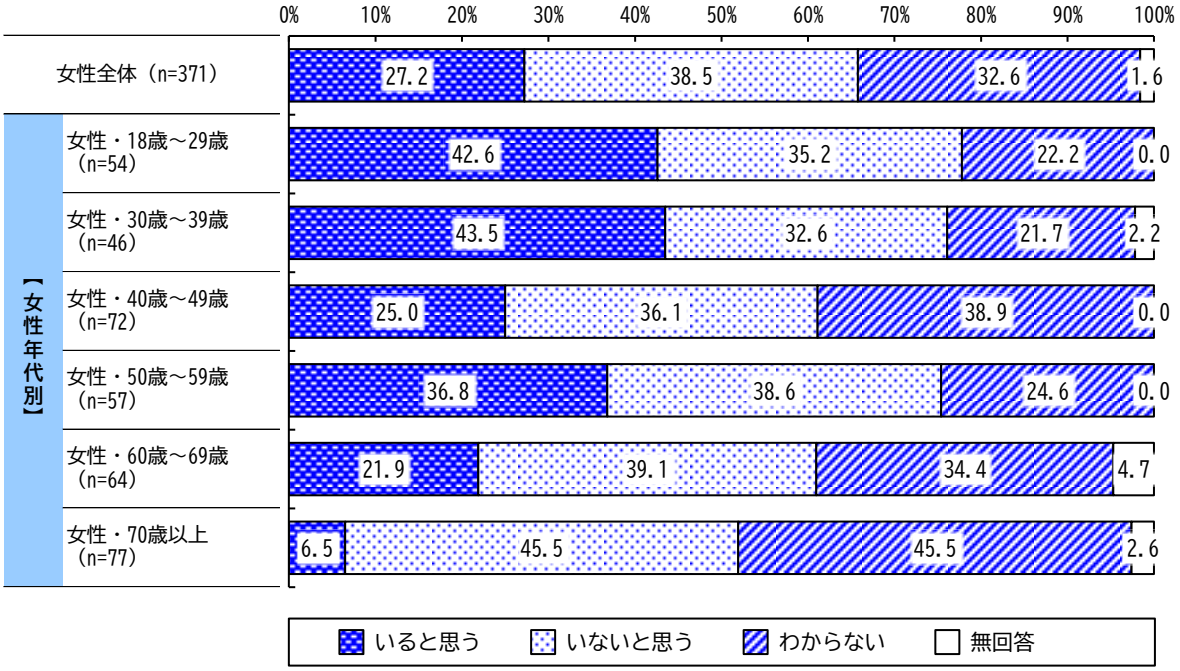
経年比較でみると、「いると思う」、「いないと思う」のそれぞれの割合が増加傾向にあります。

【全体・性別】

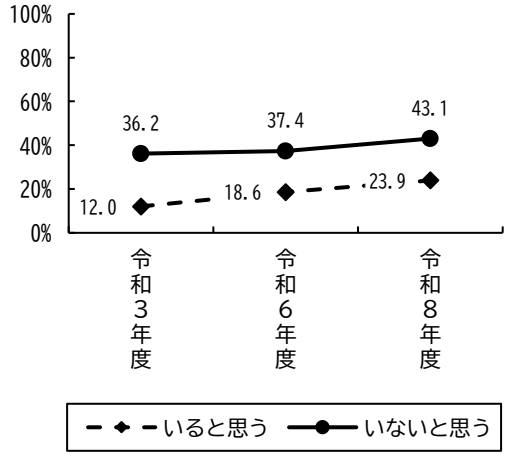


【性・年代別】





【経年比較】



	調査数	いると思う	いないと思う	わからない	無回答
令和３年度	826	12.0%	36.2%	49.8%	2.1%
令和６年度	732	18.6%	37.4%	42.8%	1.2%
令和８年度	700	23.9%	43.1%	30.9%	2.1%

※無回答などを省略していますので、合計しても100%にならないことがあります。

※令和３年度は「いる」「いない」。

３. 性的マイノリティの方々に対する偏見や差別への対策

問23　性的マイノリティの方々に対する偏見や差別をなくし、性のあり方にかかわらず全ての人が生活しやすくなるためにはどのような対策が必要だと思いますか。（あてはまるもの全てに○）

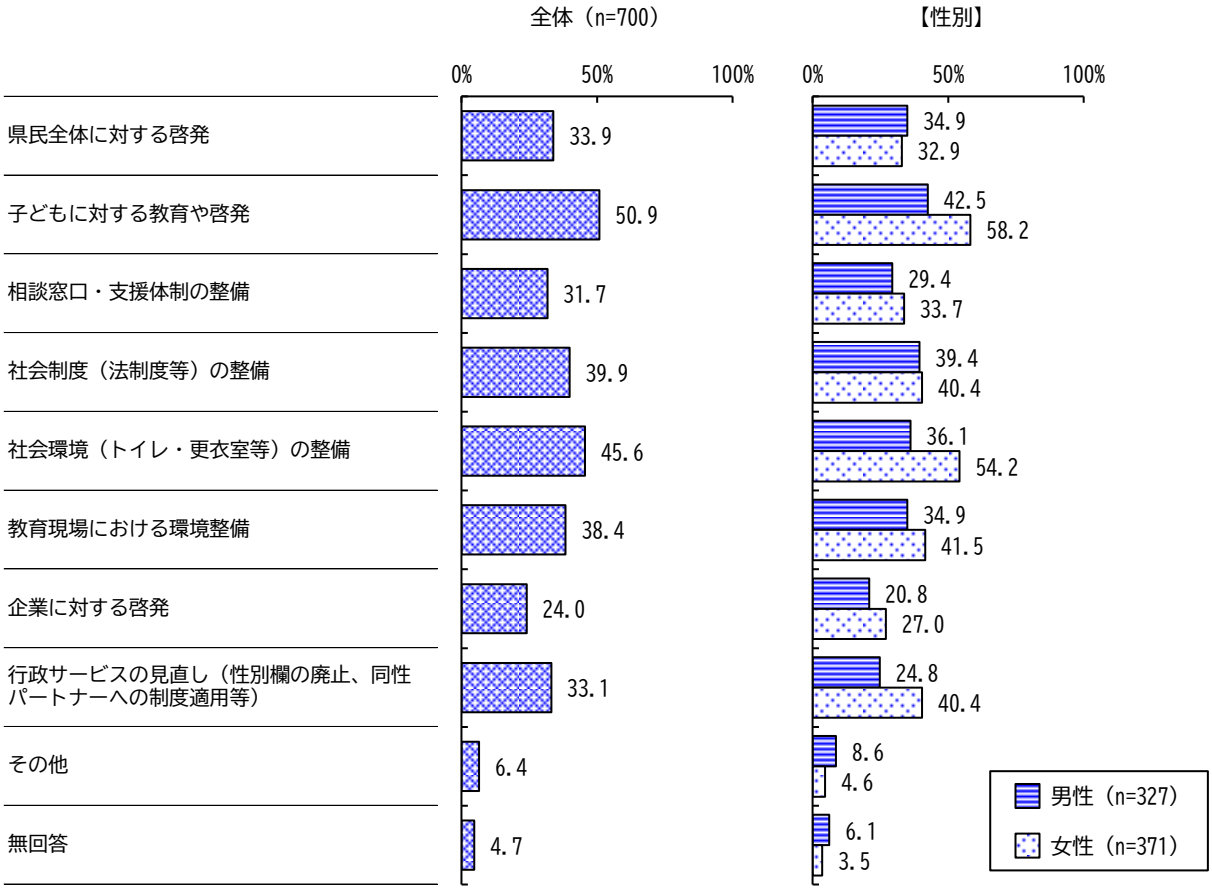
対策で必要なものは「子どもに対する教育や啓発」が50.9%、「社会環境(トイレ・更衣室等)の整備」が45.6%。

性的マイノリティの方々に対する偏見や差別をなくし、性のあり方にかかわらず全ての人が生活しやすくなるためにはどのような対策が必要と思うかたずねたところ、「子どもに対する教育や啓発」が50.9%と最も高く、次に「社会環境（トイレ・更衣室等）の整備」が45.6%、「社会制度（法制度等）の整備」が39.9%、「教育現場における環境整備」が38.4%となっています。

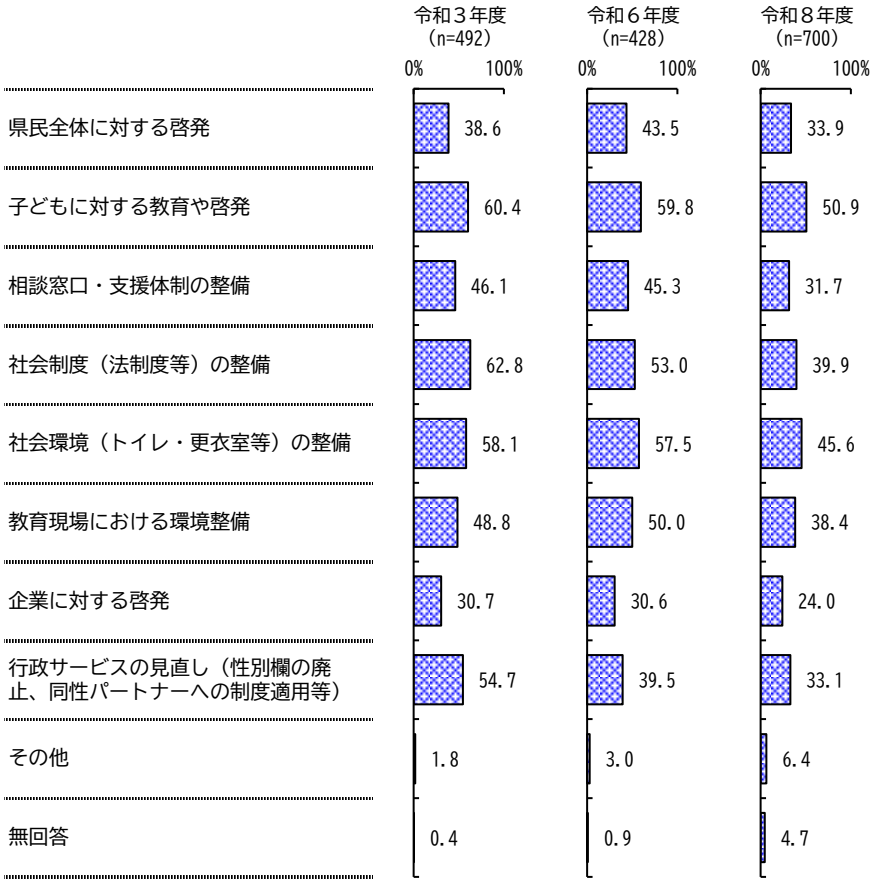
性別でみると、女性が男性より高い割合となっている項目は「社会環境（トイレ・更衣室等）の整備」（18.1ポイント差)、「子どもに対する教育や啓発」（15.7ポイント差)、「行政サービスの見直し（性別欄の廃止、同性パートナーへの制度適用等)」（15.6ポイント差)などとなっており、男女間で差がみられます。

経年比較でみると、前回調査と今回調査ではともに「子どもに対する教育や啓発」の割合が最も高くなっています。

【全体・性別】



【経年比較】



※令和３年度、６年度は、別の設問で性的マイノリティの方々の人権を守る啓発や施策が「必要だと思う」と回答した人だけに聞いているため回答比率は令和８年度よりも高い傾向にあります。

４. 男女共同参画社会の実現のために重要な取組

問24　男女共同参画社会の実現に向けて、重要だと思われる取組は何だと思いますか。（３つまでに○）

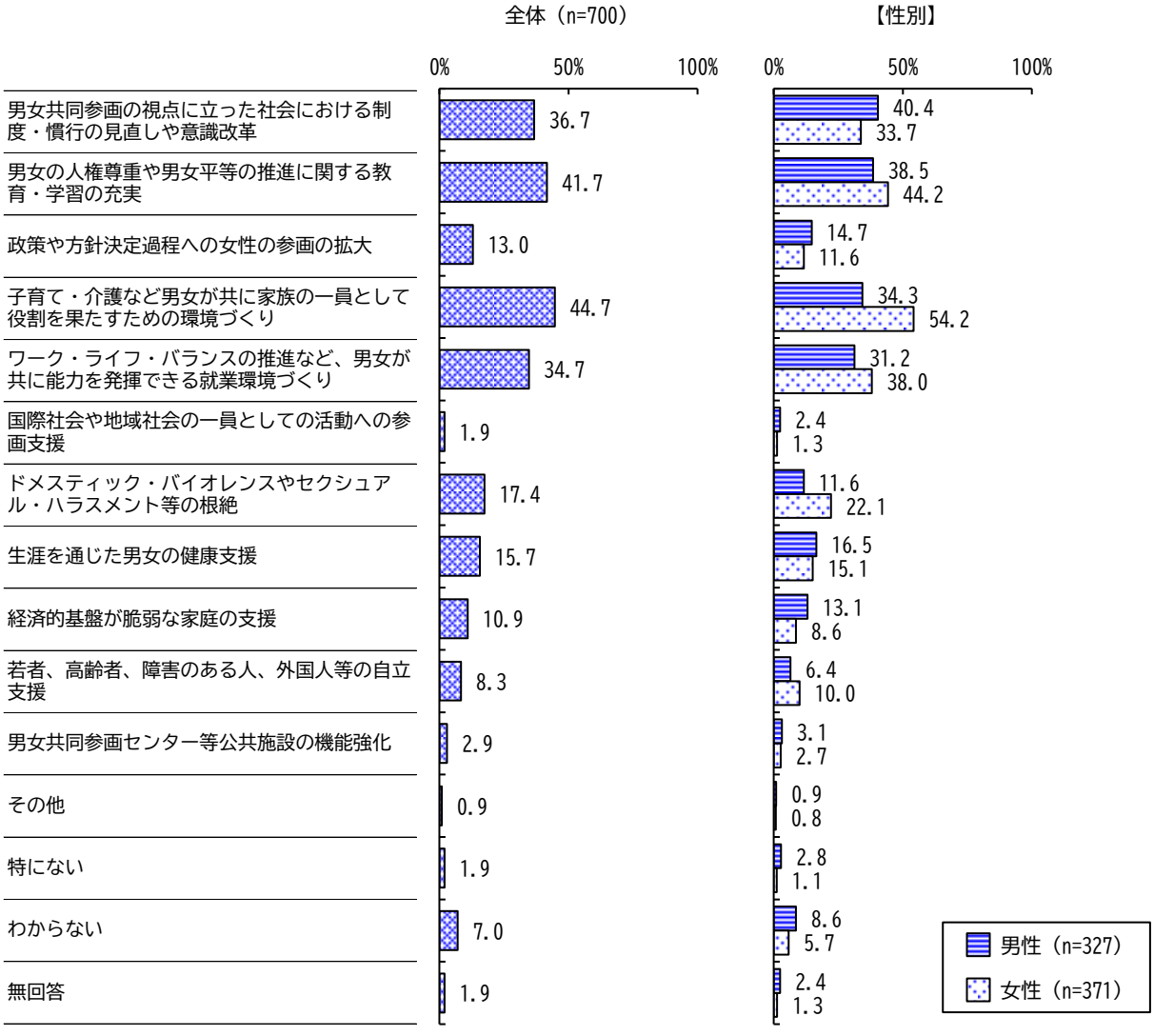
「子育て･介護など男女が共に家族の一員として役割を果たすための環境づくり」が44.7%、「男女の人権尊重や男女平等の推進に関する教育･学習の充実」が41.7%。

男女共同参画社会の実現に向けて、重要だと思われる取組をたずねたところ、「子育て・介護など男女が共に家族の一員として役割を果たすための環境づくり」が44.7%と最も高く、次に「男女の人権尊重や男女平等の推進に関する教育・学習の充実」が41.7%、「男女共同参画の視点に立った社会における制度・慣行の見直しや意識改革」が36.7%、「ワーク・ライフ・バランスの推進など、男女が共に能力を発揮できる就業環境づくり」が34.7%となっています。

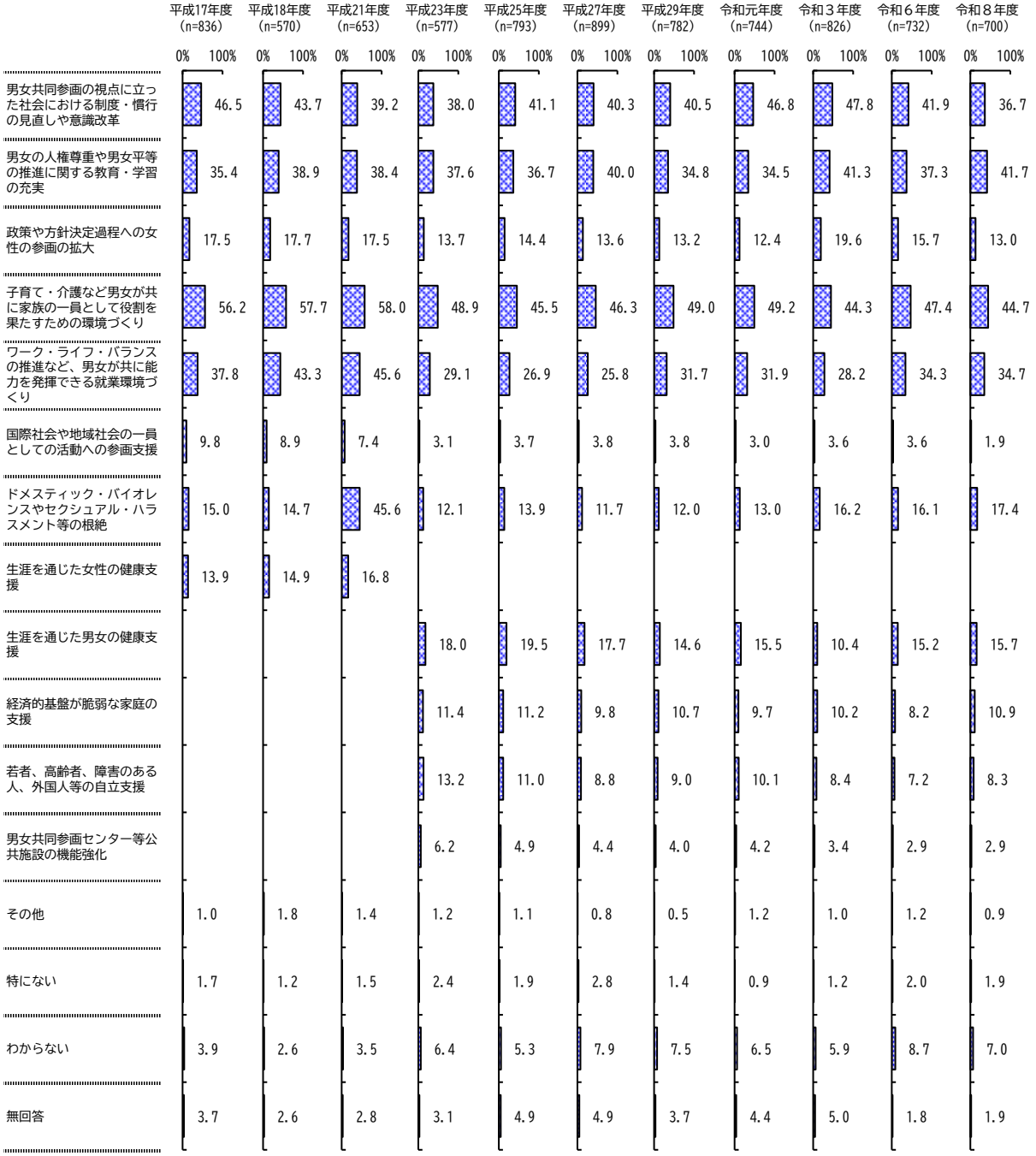
性別でみると、女性が男性より高い割合となっている項目は「子育て・介護など男女が共に家族の一員として役割を果たすための環境づくり」(19.9ポイント差) などとなっており、男女間で差がみられます。

経年比較でみると、「男女の人権尊重や男女平等の推進に関する教育・学習の充実」の割合が前回調査よりやや高く、「男女共同参画の視点に立った社会における制度・慣行の見直しや意識改革」の割合が前回調査よりやや低くなっています。

【全体・性別】



【経年比較】



※「生涯を通じた女性の健康支援」は平成23年度より「生涯を通じた男女の健康支援」に変更
※「経済的基盤が脆弱な家庭の支援」、「若者、高齢者、障害のある人、外国人等の自立支援」、「男女共同参画センター等公共施設の機能強化」は平成23年度より追加